

平成29年度佐賀県小・中学校学習状況調査〔12月調査〕
結果報告

平成30年2月19日(月)

佐賀県教育委員会

－ 目 次 －

I	調査の実施概要	1
II	教科に関する調査結果の概要	4
III	教科ごとの調査結果とその分析	
	◎国語	
	(1) 結果の概要	8
	(2) 成果と課題及び指導改善のポイント	10
	(3) 各学年の設問ごとの正答率	12
	(4) 地域別の状況	22
	◎社会	
	(1) 結果の概要	24
	(2) 成果と課題及び指導改善のポイント	26
	(3) 各学年の設問ごとの正答率	28
	(4) 地域別の状況	38
	◎算数・数学	
	(1) 結果の概要	40
	(2) 成果と課題及び指導改善のポイント	42
	(3) 各学年の設問ごとの正答率	44
	(4) 地域別の状況	54
	◎理科	
	(1) 結果の概要	56
	(2) 成果と課題及び指導改善のポイント	58
	(3) 各学年の設問ごとの正答率	60
	(4) 地域別の状況	70
	◎英語	
	(1) 結果の概要	72
	(2) 成果と課題及び指導改善のポイント	74
	(3) 各学年の設問ごとの正答率	75
	(4) 地域別の状況	79

I 調査の実施概要

1 調査の目的

学習指導要領に示されている目標や内容の定着状況を把握し、教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

各学校は、児童生徒一人一人の調査結果を踏まえた指導改善を行うとともに、教育委員会は、課題解決に向けた施策の見直しや充実を図る。

なお、調査に当たっては、市町教育委員会と県教育委員会が連携・協力し、実施する。

学力は、知識や技能に加えて、自ら学び、判断・行動し、問題解決する資質や能力等までを含めたものです。今回の調査結果は、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面を示すものです。

2 調査実施日

小・中学校とも平成29年12月5日(火)、6日(水)

3 調査内容

- 各教科の目標や内容の実現状況に関する「教科に関する調査」
 - ・小4、小5、小6 国語、社会、算数、理科
 - ・中1、中2 国語、社会、数学、理科、英語

4 調査方法

- 教科に関する調査
 - ・小学校 各教科 45分 各学校で時間を設定して実施
 - ・中学校 各教科 50分 各学校で時間を設定して実施

5 調査の成果指標

○ 教科に関する調査

学習指導要領の目標や内容の実現状況を到達基準〔注1〕として、「おおむね達成」と「十分達成」の2つの基準値を設定し、全学年・全教科において「十分達成」を超えることを目指している。

6 調査対象及び調査人数

	学校数	学年	人数
小学校	166	第4学年	7,685
		第5学年	7,553
		第6学年	7,370
中学校	93	第1学年(県立中学校を含む)	7,155
		第2学年(県立中学校を含む)	7,212
		計	36,975

公立小学校数は、県立特別支援学校小学部（5校）及び義務教育学校前期課程（5校）を含む。
公立中学校数は、県立中学校（4校）、県立特別支援学校中学部（4校）及び義務教育学校後期課程（5校）を含む。

〔注1〕 到達基準について

佐賀県では、平成20年度調査から、学習指導要領の目標や内容に照らして、児童生徒に求められる正答率の目標値を「到達基準」として設定している。これにより、同じ指標による経年比較も可能となる。

「到達基準」は、修正エーベル法〔注2〕の考え方に沿って、小問ごとに設定した「期待正答率」を集約したものである。「期待正答率」とは、受検した児童生徒のうち正答することが期待される者の人数の割合であり、問題の特性や難易度に応じて判断し、小問ごとに以下のような「十分達成」「おおむね達成」という2つの基準値を設定している。

- 「十分達成」の到達基準…学習内容の習得が十分であると判断される基準（目標到達基準）
- 「おおむね達成」の到達基準…最低限これを上回ることが必要であると判断される基準（最低到達基準）

このように、事前に設定した「到達基準」と調査結果を比較することにより、到達度を測ることができる。

また、各学校においては、この到達基準を基に、自校の調査結果を分析し、自校の取組を検証するとともに、課題に応じた重点目標を設定し、解決に向けた指導の工夫・改善に取り組む。

〔注2〕 修正エーベル法について

- 1972年にエーベルが提唱したエーベル法に橋本重治が修正を加えて考案した到達基準の設定方法で、個々の小問の判断に基づくエーベル法をより簡略化して利用できるようにしたもの。
- 各小問を、関連性と困難度のマトリックスにおいて分類する。
- 関連性は、「基礎的・基本的」（後の学習への関連性が高く、その学年でぜひとも身に付けさせたい目標を測る問題）と「発展的・応用的」（比較的高度で、後の学習への関連性がそれほど高くないが、その学年で身に付けることが望ましい目標を測る問題）の2区分である。
- 困難度は次の分類表のとおり、「平易」「普通」「困難」の3区分。ただし、「基礎的・基本的」に分類される「困難」な問題は妥当ではないので、分類から除外する。全ての小問が、(A)(B)(C)(D)(E)のいずれかに割り振られる。

■ 修正エーベル法における問題の分類表

	平易	普通	困難
基礎的・基本的	(A)	(B)	
発展的・応用的	(C)	(D)	(E)

- 本調査では、過去の調査結果の傾向を踏まえて、次の表のように小・中学校別に期待正答率を設定している。

■ 小・中学校別期待正答率

(注)上段の数値は「十分達成」、下段の数値は「おおむね達成」の場合を示している。

		平易		普通		困難			
小学校	基礎的・基本的	(A)	0.85(85%)	(B)	0.80(80%)				
			0.65(65%)		0.60(60%)				
	発展的・応用的	(C)	0.75(75%)	(D)	0.70(70%)			(E)	0.65(65%)
			0.55(55%)		0.50(50%)				0.45(45%)
中学校	基礎的・基本的	(A)	0.75(75%)	(B)	0.70(70%)				
			0.55(55%)		0.50(50%)				
	発展的・応用的	(C)	0.65(65%)	(D)	0.60(60%)			(E)	0.55(55%)
			0.45(45%)		0.40(40%)				0.35(35%)

Ⅱ 教科に関する調査結果の概要

(1) 平成 29 年度[12 月調査]の結果

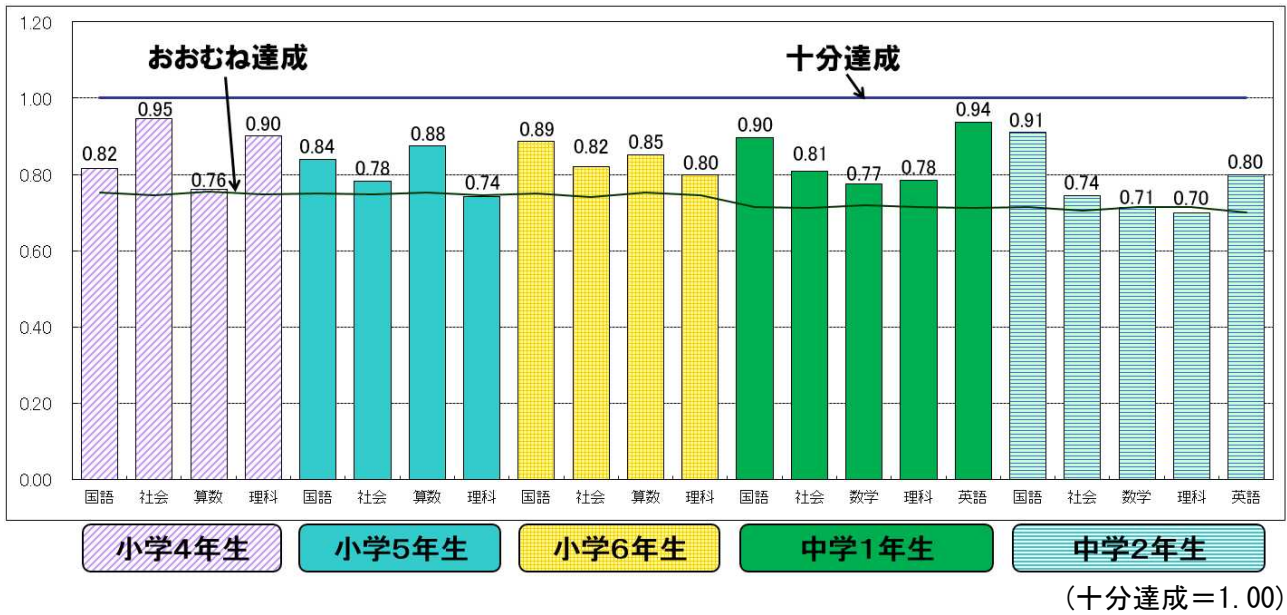
- 平成 29 年度[12 月調査]の到達状況を見ると、県で設定した到達基準(P2〔注1〕参照)に対して「おおむね達成」の到達基準を上回ったものは、22 教科中 20 教科(小学校 12 教科中 11 教科、中学校 10 教科中 9 教科)であり、本県児童生徒の学習内容の習得状況は、おおむね良好であった。
- 小学 5 年生と中学 2 年生の理科が、「おおむね達成」の基準を下回っており、課題が見られた。

【表 1】各学年・教科の到達状況

教科	平成 29 年度[12 月調査]の到達状況				平成 28 年度[12 月調査]の到達状況			
	県正答率 (a)	到達基準		「十分達成」に 対する割合 (a/b)	県正答率 (a)	到達基準		「十分達成」に 対する割合 (a/b)
		十分達成(b)	おおむね達成			十分達成(b)	おおむね達成	
小4国語	66.1	81.0	61.0	0.82	56.2	83.0	63.0	0.68
小4社会	74.1	78.4	58.4	0.95	72.0	78.8	58.8	0.91
小4算数	61.9	81.4	61.4	0.76	71.2	80.0	60.0	0.89
小4理科	71.5	79.3	59.3	0.90	66.2	78.7	58.7	0.84
小5国語	67.3	80.2	60.2	0.84	66.0	82.2	62.2	0.80
小5社会	61.9	79.1	59.1	0.78	63.9	77.7	57.7	0.82
小5算数	70.6	80.6	60.6	0.88	64.6	80.6	60.6	0.80
小5理科	58.0	78.3	58.3	0.74	71.3	79.8	59.8	0.89
小6国語	71.1	80.2	60.2	0.89	70.2	81.6	61.6	0.86
小6社会	63.5	77.3	57.3	0.82	56.0	77.7	57.7	0.72
小6算数	68.7	80.6	60.6	0.85	68.9	79.6	59.6	0.87
小6理科	63.0	78.9	58.9	0.80	68.0	78.0	58.0	0.87
中1国語	62.8	70.0	50.0	0.90	68.0	70.3	50.3	0.97
中1社会	56.0	69.3	49.3	0.81	55.5	70.0	50.0	0.79
中1数学	55.1	71.1	51.1	0.77	58.5	69.3	49.3	0.84
中1理科	55.0	70.2	50.2	0.78	54.4	69.2	49.2	0.79
中1英語	65.2	69.6	49.6	0.94	71.0	66.4	46.4	※1 1.07
中2国語	64.1	70.3	50.3	0.91	63.6	69.4	49.4	0.92
中2社会	50.6	68.0	48.0	0.74	52.9	68.8	48.8	0.77
中2数学	50.0	70.0	50.0	0.71	52.4	68.3	48.3	0.77
中2理科	49.0	70.2	50.2	0.70	48.9	68.8	48.8	0.71
中2英語	53.4	66.8	46.8	0.80	68.5	65.7	45.7	※1 1.04

※1 網掛けについては「十分達成」に対する割合が 1.00 を上回っている教科を示している。

[グラフ1] 平成29年[12月調査] 各学年・教科正答率の「十分達成」に対する割合



(2) 平成29年度[4月調査]との比較

- 「十分達成」に対する割合が、平成29年度[4月調査]の割合を上回ったものは、8教科中6教科であった。

[表2] 国語、算数・数学における各学年・教科の到達状況(平成29年度[4月調査]との比較)

教科	平成29年度[12月調査]の到達状況				平成29年度[4月調査]の到達状況			
	県正答率 (a)	到達基準		「十分達成」に対する割合 (a/b)	県正答率 (a)	到達基準		「十分達成」に対する割合 (a/b)
		十分達成(b)	おおむね達成			十分達成(b)	おおむね達成	
小5国語	67.3	80.2	60.2	0.84	61.5	82.5	62.5	0.75
小5算数	70.6	80.6	60.6	0.88	65.4	79.8	59.8	0.82
小6国語	71.1	80.2	60.2	0.89	※ ² 68.0	※ ³ 80.2	※ ³ 60.2	0.85
小6算数	68.7	80.6	60.6	0.85	※ ² 65.5	※ ³ 77.7	※ ³ 57.7	0.84
中1国語	62.8	70.0	50.0	0.90	68.5	82.3	62.3	0.83
中1数学	55.1	71.1	51.1	0.77	68.5	79.6	59.6	0.86
中2国語	64.1	70.3	50.3	0.91	58.0	69.8	49.8	0.83
中2数学	50.0	70.0	50.0	0.71	54.3	68.7	48.7	0.79

平成29年度[4月調査]においては、該当学年の前学年までの内容(中学1年は、小学6年までの内容)を、また、平成29年度[12月調査]においては、各教科が定める出題範囲までの内容を調査対象としている。

※² 平成29年度[4月調査]の小6国語、小6算数については、全国調査問題を県独自の基準で採点し、A問題とB問題とを合わせたときの正答率を示している。

※³ 平成29年度[4月調査]の小6国語、小6算数については、全国調査問題を利用しているが、参考のために、県独自に到達基準を設定している。

Ⅲ 教科ごとの調査結果とその分析

国 語

(1) 結果の概要

○ 教科正答率は、小・中学校共に全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。

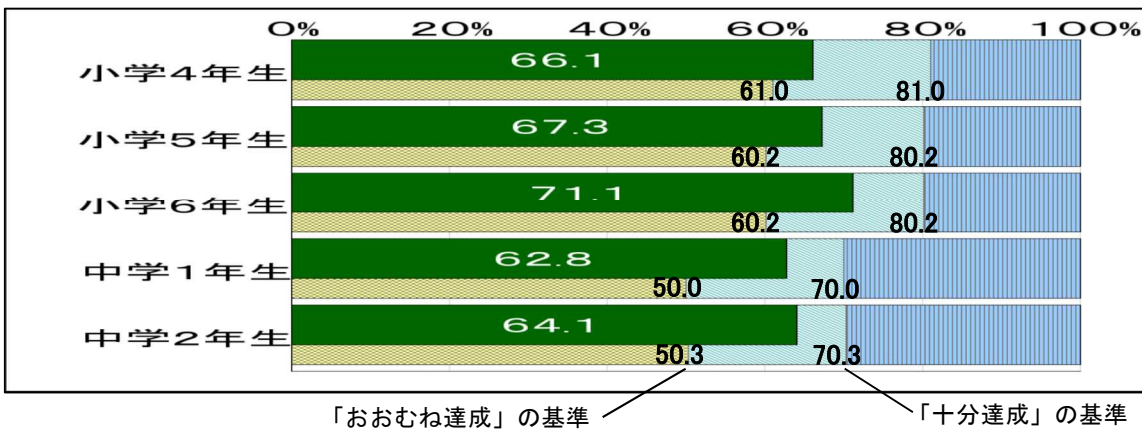
[グラフ1]

○ 「活用」に関する問題については、小学5年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ2]

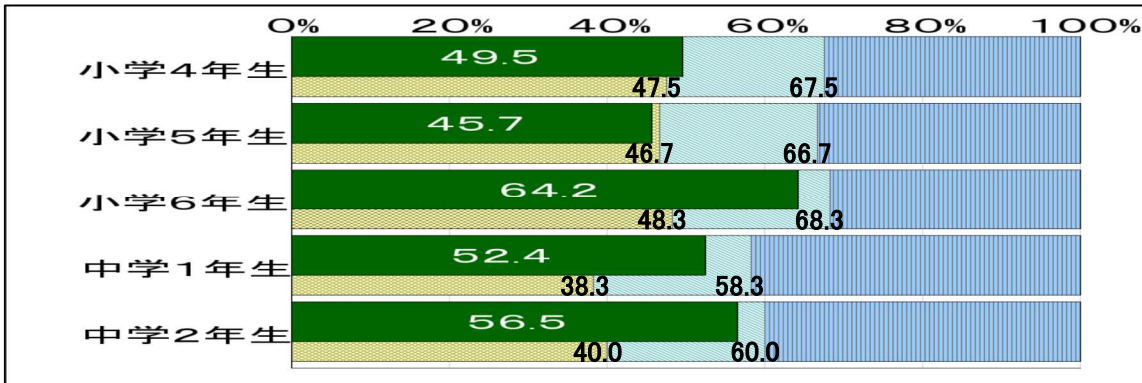
○ 観点別に見ると、小学6年生と中学2年生は、全ての観点で「おおむね達成」の基準を上回っている。「話す・聞く能力」、「書く能力」、「知識・理解・技能」については、小・中学校共に全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。特に、「書く能力」については、中学1年生と中学2年生で「十分達成」の基準を上回っている。「読む能力」については、小学4年生と小学5年生、中学1年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ3～6]

○ 内容・領域別に見ると、「漢字の読み」については、小・中学校共に全ての学年で「十分達成」の基準を上回っている。「漢字の書き」については、小学5年生と小学6年生、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。「語句に関する知識」については、小学5年生で「十分達成」を上回っており、小学4年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ7～11]

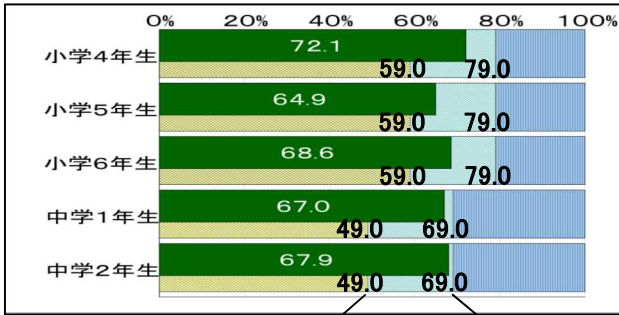
[グラフ1]国語 教科正答率



[グラフ2]国語 「活用」に関する問題の正答率

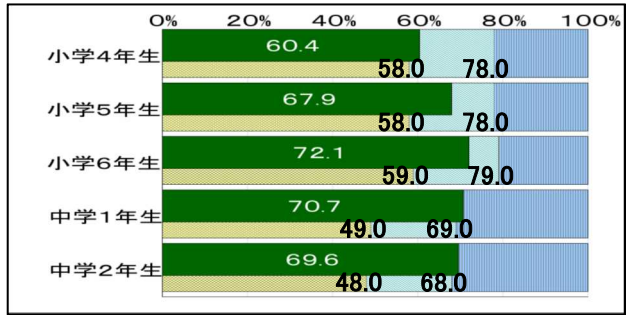


[グラフ3] 国語「話す・聞く能力」観点の正答率

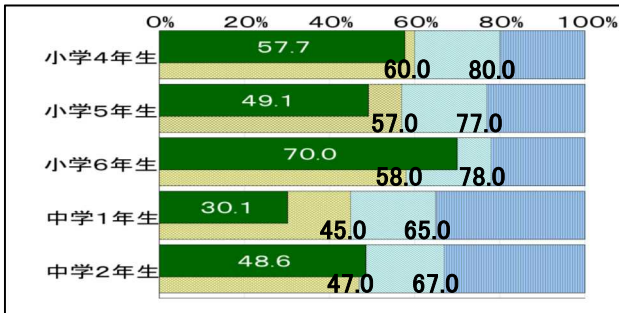


「おおむね達成」の基準 「十分達成」の基準

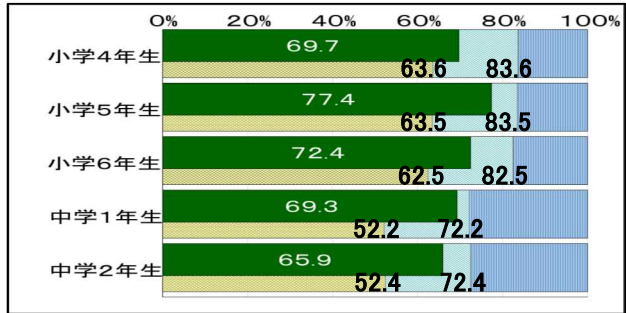
[グラフ4] 国語「書く能力」観点の正答率



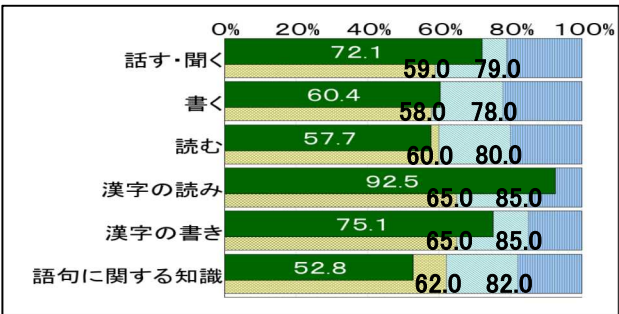
[グラフ5] 国語「読む能力」観点の正答率



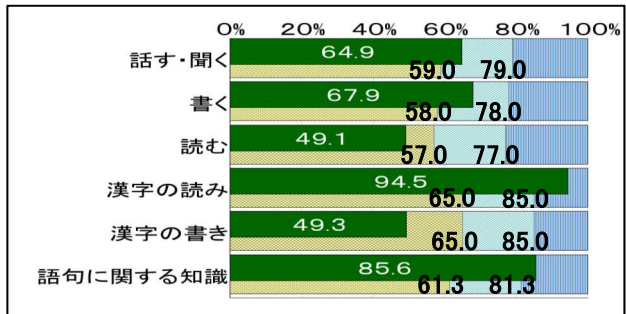
[グラフ6] 国語「知識・理解・技能」観点の正答率



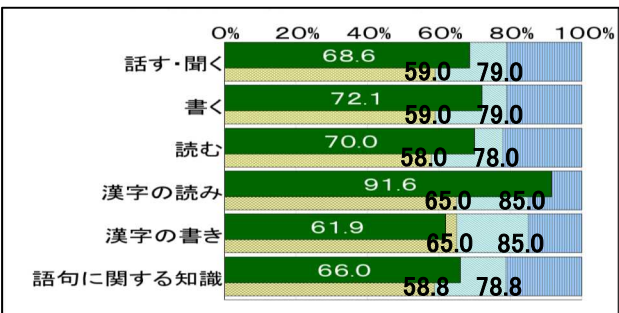
[グラフ7] 小学4年生 内容・領域別正答率



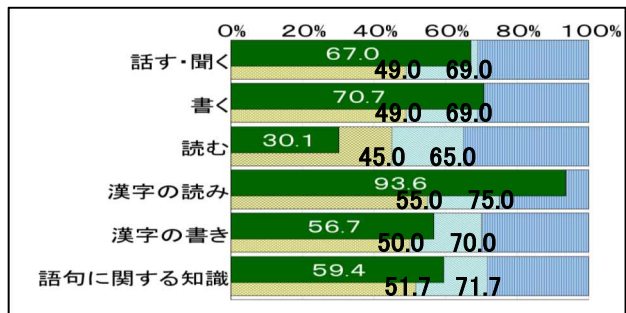
[グラフ8] 小学5年生 内容・領域別正答率



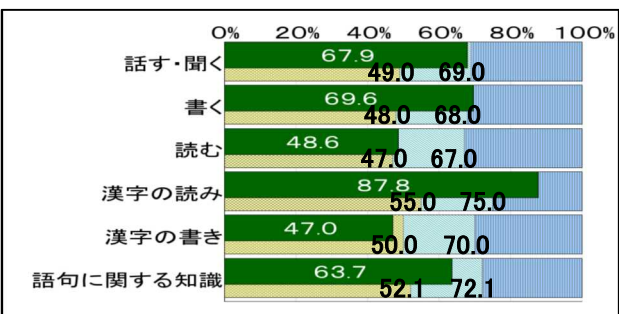
[グラフ9] 小学6年生 内容・領域別正答率



[グラフ10] 中学1年生 内容・領域別正答率



[グラフ11] 中学2年生 内容・領域別正答率



(2) 成果と課題及び指導改善のポイント


小学校国語（小学4年生、小学5年生、小学6年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 互いの考えの共通点や相違点を捉えて話し合ったり、話の意図や目的を考えて聞いたりすることができている。
(小学4年生¹四、小学5年生¹三)
- ◇ 目的や意図に応じて、取材の内容を考えたり、事実と意見を区別して書いたりすることができている。
(小学5年生³四、小学6年生³四)
- ◇ 文脈に即して漢字を正しく読むことができている。
(小学4年生⁵一、小学5年生⁶一、小学6年生⁶一)
- ◆ 1 立場や意図をはっきりさせながら計画的に話し合うことに課題が見られる。
(小学5年生²一、小学6年生²一)
- ◆ 2 目的や必要に応じて、書こうとすることの中心を明確にしたり、理由や事例を挙げたりして書くことに課題が見られる。
(小学4年生²二、小学5年生³五)
- ◆ 3 登場人物の会話に即して読んだり、優れた叙述に着目して自分の考えをまとめたりすることに課題が見られる。
(小学4年生³二、小学5年生⁴二)

指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック☑してみましょう。）

- ◆ 1 立場や意図をはっきりさせながら計画的に話し合う力を育成するためには、グループや学級全体の話し合い活動で、次のような指導を行うことが大切です。
 - グループや学級全体での共通理解や問題解決に向けて、意見を出し合い一つにまとめていく「協議」や互いの考えの違いを大事にしながら多くの考えを関係付ける「討論」などの活動を言語活動として設定していますか。
 - 協議や討論のモデルを示すなどして、児童が話し合いの仕方を理解できるような指導を行い、実際に協議や討論をする活動を単元の中に設定するようにしていますか。
 - 児童が、司会などの役割を理解できるようにし、話し合いの規模に応じて児童一人一人がそれぞれの役割を果たすような経験ができる機会を設けるようにしていますか。
 - 話し合い活動のあとに、自分の発言や友達の発言を振り返る時間を設けていますか。
- ◆ 2 書こうとすることの中心を明確にしたり、目的や必要に応じて、理由や事例を挙げたりして書く力を育成するためには、書く活動で、次のような指導を行うことが大切です。
 - 児童がもった課題について調べさせ、意見を記述した文章や活動を報告した文章を書くような言語活動を設定していますか。
 - 理由や事例を挙げて書く際は、「なぜかという～」、「～のためである」、「例えば～」、「～などが当たる」などの表現を使って書くように指導していますか。
 - 自分の考えを明確に表しているか、表現の曖昧さはないかなど、自分が書いた文章を児童自身が推敲する活動を設定していますか。
 - 書いた文章などを児童がお互いに読み合っ、表現の仕方について助言し合ったり、よいところを見つけて感想を伝え合ったりするような活動を設定していますか。
- ◆ 3 登場人物の会話に即して読んだり、優れた叙述に着目して自分の考えをまとめたりする力を育成するためには、文学的な文章を解釈する活動で、次のような指導を行うことが大切です。
 - 文学的な文章を読み、感想を述べ合うような言語活動を設定するようにしていますか。
 - 場面ごとに読ませるのではなく、物語全体に描かれた行動や会話に関わる複数の叙述を関連付けて登場人物の気持ちの変化や性格を想像させるようにしていますか。
 - 学習した教材と同じ作者や同じ題材の作品を比べ読みできるようにするなど、児童が日常的に文学的な文章に触れることができるように教室環境を整えていますか。

 ぜび ご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターのプロジェクト研究では、学習状況調査から見える課題の解決に向けた授業づくりに取り組んでいます。「単元で学び、単元で力をつける」をキーワードにした授業づくり、第4・5・6学年の「学習指導案」や「ワークシート」を提案しています。授業づくりに役立ててください。

中学校国語（中学1年生、中学2年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 多様な語句について理解を深め、語句や語彙を正しく使うことができている。
(中学1年生⁵四、中学2年生⁵四12)
- ◇ 全体と部分の関係に注意して話したり、異なる立場や考えを想定して話したりすることができる。
(中学1年生¹四、中学2年生¹一)
- ◆1 歴史的仮名遣いについて理解したり、現代語訳を手掛かりにして作品の内容を理解したりすることに一部課題が見られる。
(中学1年生⁵六1、中学2年生⁵六12)
- ◆2 描写から行動の理由を読み取ったり、自分の考えをまとめるための根拠を明確にしたりすることに課題が見られる。
(中学1年生⁴一、中学校2年生⁴二)
- ◆3 表現や描写の特徴を捉え自分の考えをもったり、情報と関連付けながら読んだりすることに一部課題が見られる。
(中学1年生³三⁴二、中学2年生⁴四)

指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック☑してみましょう。）

- ◆1 歴史的仮名遣いについて理解したり、現代語訳を手掛かりにして作品の内容を理解したりする力を育成するためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 古典の文章を繰り返し音読し、文語のきまりを理解できるようにしていますか。
 - 古典に描かれている情景や登場人物の心情を想像するなど具体的な目的をもたせ、現代語訳や語注、解説した文章などを手掛かりにして、古典を読み進めることができるようにしていますか。
 - 「兼好法師にとっての仁和寺とは？ 法師の足取りを本文と資料を重ねて読み取り、仁和寺観光ガイド（鎌倉時代版）を作ろう。」というような古典を学習する面白さや必然性を感じさせる学習課題の設定ができていますか。

- ◆2 描写から行動の理由を読み取ったり、自分の考えをまとめるための根拠を明確にしたりする力を育成するためには、内容を把握し文章を解釈する過程で、次のような指導を行うことが大切です。
 - 登場人物の言動がどのような心情に基づくものかを、心情描写だけではなく、会話や他の行動、情景などの描写に注意して読み進めながら、考えることができるようにしていますか。
 - 生徒が、描写について考えを交流する場面で、互いの考えについて「なぜ～」のように理由や根拠を問うことができるようにしていますか。また、理由や根拠だけではなく、考えについて、どのようにして、その考えに至ったのか、本当にその考えは正しいのか、例えばどのような具体例があるのかなどを問い、考えを深めることができるようにしていますか。

- ◆3 表現の特徴を捉え自分の考えをもったり、情報と関連付けながら読んだりする力を育成するためには、文章を解釈し自分の考えをもつ過程で、次のような指導を行うことが大切です。
 - 表現技法などの基礎的な知識をまとめたワークシートをファイリングするなどして、生徒がいつも参照することができるようにしていますか。
 - 「指導事項」「言語活動」「単元を中心となる思考操作」を明示した学習課題を設定し、生徒が自分の問いをもって読み進めることができるようにしていますか。
 - 複数の教材を読み比べたり、教材と図表などを関連付けながら読んだりする活動を授業に位置付けていますか。



ぜひ ご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターのプロジェクト研究では、学習状況調査から見える課題の解決に向けた授業づくりに取り組みました。「学習課題設定の工夫」や「主体的な学習を促す言語活動の工夫」をキーワードに、「読むこと」の領域の第1・2学年の実践事例や「ワークシート」について提案しています。授業づくりに役立ててください。

(3) 各学年の設問ごとの正答率

[表 1] 小学校4年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,405	66.1	1.7	81.0	61.0	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	5	72.1	1.1	79.0	59.0	
	書く	5	60.4	2.1	78.0	58.0	
	読む	5	57.7	1.2	80.0	60.0	▼
	漢字の読み	3	92.5	1.4	85.0	65.0	◎
	漢字の書き	3	75.1	3.5	85.0	65.0	
	語句に関する知識	5	52.8	1.5	82.0	62.0	▼
評価の観点	①話す・聞く	5	72.1	1.1	79.0	59.0	
	②書く	5	60.4	2.1	78.0	58.0	
	③読む	5	57.7	1.2	80.0	60.0	▼
	④知識・理解・技能	11	69.7	2.0	83.6	63.6	
問題形式	選択式	16	59.7	1.0	81.3	61.3	▼
	短答式	8	83.0	2.4	83.8	63.8	
	記述式	2	49.5	4.6	67.5	47.5	
活用	「活用」に関する問題	2	49.5	4.6	67.5	47.5	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況	
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式				短答式	記述式		十分達成
1	一	理由を挙げながら話す	○					○							77.9	0.3	85	65	
1	二	適切な言葉遣いで話す	○					○			○				79.9	1.0	80	60	
1	三	司会の役割を理解し、話し合いを進める	○					○			○				65.0	0.3	80	60	
1	四	互いの考えの共通点や相違点を考え、進行に沿って話し合う	○					○			○				81.5	0.4	80	60	◎
1	五	話の中心に気を付けて聞き、分からない点や確かめたい点を質問する	○					○				○	○		56.0	3.5	70	50	
2	一	目的に応じて、内容の中心を明確にして見出しを書く	○					○			○				82.2	0.3	85	65	
2	二	書こうとすることの中心を明確にするために、理由や事例を挙げて書く	○					○			○				38.9	0.4	80	60	▼
2	三	考えを明確に記述しているか検討する	○					○			○				56.9	0.6	80	60	▼
2	四	文末表現の使い方に注意して、よりよい表現に書き直す	○					○			○				80.9	3.5	80	60	◎
2	五	メモを基に、書こうとすることの中心を明確にして文章を書く	○					○				○	○		43.1	5.7	65	45	▼
3	一	叙述を基に、登場人物の気持ちを想像して読む	○					○			○				73.6	0.7	80	60	
3	二	登場人物の会話に即しながら読む	○					○			○				54.1	1.0	80	60	▼
4	一	中心となる文を捉える	○					○			○				64.5	1.1	80	60	
4	二	要点に注意して読む	○					○			○				81.9	1.4	80	60	◎

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式				記述式	十分達成	
4	三	事実と意見とを区別して読む		○					○		○			14.7	1.7	80	60	▼	
5	一1	文脈に即して漢字を正しく読む「温める」			○				○		○			97.4	0.7	85	65	◎	
5	一2	文脈に即して漢字を正しく読む「敗れる」			○				○		○			88.1	1.9	85	65	◎	
5	一3	文脈に即して漢字を正しく読む「親切」			○				○		○			92.1	1.6	85	65	◎	
5	二1	文脈に即して漢字を正しく書く「転がす」				○			○		○			74.7	5.5	85	65		
5	二2	文脈に即して漢字を正しく書く「湖」				○			○		○			63.0	2.9	85	65	▼	
5	二3	文脈に即して漢字を正しく書く「足首」				○			○		○			87.6	2.2	85	65	◎	
5	三1	主語と述語の関係を理解する					○		○		○			81.8	1.2	85	65		
5	三2	主語と述語の関係を理解する					○		○		○			66.9	1.4	85	65		
5	四	国語辞典の使い方を理解する					○		○		○			22.2	1.2	80	60	▼	
5	五1	修飾と被修飾の関係を理解する					○		○		○			70.9	1.8	80	60		
5	五2	修飾と被修飾の関係を理解する					○		○		○			22.5	1.9	80	60	▼	

[表2] 小学校5年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,287	67.3	4.5	80.2	60.2	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	5	64.9	1.4	79.0	59.0	
	書く	5	67.9	2.7	78.0	58.0	
	読む	5	49.1	7.9	77.0	57.0	▼
	漢字の読み	3	94.5	1.8	85.0	65.0	◎
	漢字の書き	3	49.3	11.7	85.0	65.0	▼
	語句に関する知識	4	85.6	3.2	81.3	61.3	◎
評価の観点	①話す・聞く	5	64.9	1.4	79.0	59.0	
	②書く	5	67.9	2.7	78.0	58.0	
	③読む	5	49.1	7.9	77.0	57.0	▼
	④知識・理解・技能	10	77.4	5.3	83.5	63.5	
問題形式	選択式	12	72.1	1.8	81.3	61.3	
	短答式	10	68.0	6.5	83.0	63.0	
	記述式	3	45.7	9.0	66.7	46.7	▼
活用	「活用」に関する問題	3	45.7	9.0	66.7	46.7	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式	活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む					④知識・理解・技能	十分達成	
1	一	収集した知識や情報を関係付けて自分の考えに生かす	○					○			○		80.7	1.0	80	60	◎
1	二	事柄が明確に伝わるように、話の構成を工夫する	○					○			○		61.5	0.5	85	65	▼
1	三	話の意図や目的を考えながら聞き、自分の考えをまとめる	○					○			○		83.2	0.6	80	60	◎
2	一	立場や意図をはっきりさせ、話合いを計画的に進める	○					○			○		49.0	0.5	85	65	▼
2	二	自分の立場や意図を明確にしなが話し合う	○					○			○	○	50.0	4.3	65	45	
3	一	文章をよりよい表現に書き直す	○					○			○		56.6	2.5	85	65	▼
3	二	具体的な絵や写真などを取り上げて事例を説明する	○					○			○		75.2	0.7	80	60	
3	三	目的や意図に応じて、記事に見出しを付ける	○					○			○		80.5	0.9	80	60	◎
3	四	事実と自分の感想、意見などを区別して書く	○					○			○		85.6	1.0	80	60	◎
3	五	メモを基に、書こうとすることの中心を明確にして文章を書く	○					○			○	○	41.6	8.4	65	45	▼
4	一	場面の描写を捉える	○					○			○		57.0	8.6	80	60	▼
4	二	優れた叙述に着目して、自分の考えをまとめる	○					○			○	○	45.6	14.3	70	50	▼
5	一	段落相互の関係を捉える	○					○			○		58.7	3.1	75	55	
5	二	事実と意見とを区別して読む	○					○			○		20.1	4.7	80	60	▼

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式			活用「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式				記述式	十分達成	
5	三	文章の要旨を捉え、表現の仕方に合わせてまとめる		○					○			○			64.2	8.6	80	60	
6	一1	文脈に即して漢字を正しく読む「治る」			○				○			○			97.0	1.6	85	65	◎
6	一2	文脈に即して漢字を正しく読む「囲まれる」			○				○			○			97.4	1.4	85	65	◎
6	一3	文脈に即して漢字を正しく読む「石炭」			○				○			○			89.0	2.5	85	65	◎
6	二1	文脈に即して漢字を正しく書く「球根」				○			○			○			32.4	17.2	85	65	▼
6	二2	文脈に即して漢字を正しく書く「停電」				○			○			○			34.8	11.8	85	65	▼
6	二3	文脈に即して漢字を正しく書く「弟」				○			○			○			80.8	6.0	85	65	
6	三1	同音・同訓の漢字を正しく使う「送」					○		○			○			95.1	2.3	85	65	◎
6	三2	同音・同訓の漢字を正しく使う「想」					○		○			○			95.8	2.5	85	65	◎
6	四	漢字辞典の使い方を理解する					○		○			○			80.3	3.3	80	60	◎
6	五	文の構造を見て、二文に分ける					○		○			○			71.2	4.8	75	55	

[表3] 小学校6年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,104	71.1	2.4	80.2	60.2	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	5	68.6	0.9	79.0	59.0	
	書く	5	72.1	1.9	79.0	59.0	
	読む	5	70.0	2.0	78.0	58.0	
	漢字の読み	3	91.6	0.9	85.0	65.0	◎
	漢字の書き	3	61.9	6.4	85.0	65.0	▼
	語句に関する知識	4	66.0	3.5	78.8	58.8	
評価の観点	①話す・聞く	5	68.6	0.9	79.0	59.0	
	②書く	5	72.1	1.9	79.0	59.0	
	③読む	5	70.0	2.0	78.0	58.0	
	④知識・理解・技能	10	72.4	3.6	82.5	62.5	
問題形式	選択式	11	75.5	0.8	82.7	62.7	
	短答式	10	72.2	3.5	82.0	62.0	
	記述式	4	56.2	3.8	68.8	48.8	
活用	「活用」に関する問題	3	64.2	2.1	68.3	48.3	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式		活用		期待正答率	十分達成	おおむね達成	到達状況	
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式					「活用」に関する問題
1	一	話の内容に関心をもち、自分の感想や意見を述べながら聞く	○					○							80.9	0.1	85	65	
1	二	目的や意図に応じて、インタビューの構成を工夫する	○					○							74.9	0.1	80	60	
1	三	聞いた事柄を基に、自分の考えを整理して質問する	○					○				○	○	67.4	1.4	70	50		
2	一	意図を明確にしなが、計画的に話し合う	○					○						60.8	0.1	85	65	▼	
2	二	発言内容を簡潔にまとめ、話し合いを計画に沿って進める	○					○			○			58.9	2.6	75	55		
3	一	文末表現の使い方に注意して、よりよい表現に書き直す	○					○			○			72.1	2.0	85	65		
3	二	自分の考えを明確に表しているかどうか、表現の効果などについて確かめる	○					○			○			83.2	0.2	85	65		
3	三	事実と意見を区別して書く	○					○			○			72.3	0.5	85	65		
3	四	目的や意図に応じて、取材の内容を考える	○					○			○			78.8	3.4	75	55	◎	
3	五	目的や意図に応じて、グラフを基に自分の考えを書く	○					○			○	○	54.1	3.2	65	45			
4	一	登場人物の心情を捉える	○					○			○			82.2	0.5	85	65		
4	二	場面の描写を捉え、優れた叙述について自分の考えをまとめる	○					○			○	○	71.0	1.7	70	50	◎		
5	一	文章の要旨を捉える	○					○			○			63.9	0.8	80	60		
5	二	文章の内容を的確に捉える	○					○			○			80.6	1.0	80	60	◎	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式			活用「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式				記述式	十分達成	
5	三	文章の重要な点を、表現の仕方に合わせてまとめる		○					○		○			52.2	5.7	75	55	▼	
6	一1	文脈に即して漢字を正しく読む「肥料」			○				○		○			98.5	0.5	85	65	◎	
6	一2	文脈に即して漢字を正しく読む「養う」			○				○		○			78.8	1.6	85	65		
6	一3	文脈に即して漢字を正しく読む「祭り」			○				○		○			97.5	0.5	85	65	◎	
6	二1	文脈に即して漢字を正しく書く「黒板」				○			○		○			90.9	1.8	85	65	◎	
6	二2	文脈に即して漢字を正しく書く「清潔」				○			○		○			64.4	5.8	85	65	▼	
6	二3	文脈に即して漢字を正しく書く「仕える」				○			○		○			30.3	11.5	85	65	▼	
6	三1	熟語の構成を理解する					○		○		○			79.1	1.4	85	65		
6	三2	熟語の構成を理解する					○		○		○			62.8	1.7	80	60		
6	四	慣用句の意味を理解して使う					○		○			○		32.1	8.7	70	50	▼	
6	五	国語辞典の使い方を理解する					○		○		○			89.9	2.3	80	60	◎	

[表4] 中学校1年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,026	62.8	7.1	70.0	50.0	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	5	67.0	5.6	69.0	49.0	
	書く	5	70.7	2.3	69.0	49.0	◎
	読む	5	30.1	15.0	65.0	45.0	▼
	漢字の読み	5	93.6	1.0	75.0	55.0	◎
	漢字の書き	5	56.7	14.2	70.0	50.0	
	語句に関する知識	6	59.4	4.8	71.7	51.7	
評価の観点	①話す・聞く	5	67.0	5.6	69.0	49.0	
	②書く	5	70.7	2.3	69.0	49.0	◎
	③読む	5	30.1	15.0	65.0	45.0	▼
	④知識・理解・技能	16	69.3	6.5	72.2	52.2	
問題形式	選択式	8	73.7	1.8	72.5	52.5	◎
	短答式	18	61.0	8.4	71.1	51.1	
	記述式	5	52.1	10.6	62.0	42.0	
活用	「活用」に関する問題	3	52.4	13.6	58.3	38.3	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式				短答式	十分達成	
1	一	日常生活の中から話題を決める	○					○						95.2	0.1	75	55	◎
1	二	全体と部分に気を付けて内容を整理し、話すためのメモを構成する	○					○			○			42.4	6.0	70	50	▼
1	三	相手に分かりやすい語句を使って話す	○					○			○			56.9	7.8	70	50	
1	四	全体と部分の関係に注意して話す	○					○			○			73.4	5.3	70	50	◎
1	五	必要に応じて質問する	○					○			○	○		66.9	8.6	60	40	◎
2	一	集めた材料を使って自分の考えをまとめる	○					○			○			91.4	0.8	75	55	◎
2	二	書いた文章を読み返し、叙述の仕方を確かめて分かりやすい文章にする	○					○			○			63.7	2.5	70	50	
2	三	段落の役割と内容を考えて文章を構成する	○					○			○	○		57.0	6.6	60	40	
2	四	伝えたい事柄についての根拠を明確にして書く	○					○			○			84.6	0.7	70	50	◎
2	五	書いた文章を読み合い、題材の捉え方や材料の用い方について意見を述べる	○					○			○			56.7	0.9	70	50	
3	一	文脈の中における語句の意味を理解する	○					○			○			16.9	18.1	70	50	▼
3	二	文章の中心的な部分と付加的な部分を読み分ける	○					○			○			24.7	20.9	65	45	▼
3	三	表現の特徴を捉える	○					○			○			45.8	3.2	70	50	▼
4	一	描写から行動の理由を読み取る	○					○			○			29.6	7.1	65	45	▼

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式		活用「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式				記述式	十分達成	
4	二	作品の描写の特徴を捉え、自分の考えをもつ		○					○			○	○	33.4	25.6	55	35	▼
5	一1	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字)「座る」			○				○					98.7	0.5	75	55	◎
5	一2	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字)「抱えきれぬ」			○				○					84.4	1.7	75	55	◎
5	一3	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「郵便」			○				○					98.3	0.6	75	55	◎
5	一4	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「全般」			○				○					89.3	1.5	75	55	◎
5	一5	文脈に即して漢字を正しく読む(熟字訓)「真っ青」			○				○					97.6	0.6	75	55	◎
5	二1	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「預ける」				○			○					57.8	9.4	70	50	
5	二2	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「耕す」				○			○					65.1	18.2	70	50	
5	二3	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「展覧」				○			○					41.7	15.7	70	50	▼
5	二4	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「貿易」				○			○					71.9	9.2	70	50	◎
5	二5	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「就職」				○			○					47.2	18.5	70	50	▼
5	三	文節について理解する					○		○					56.3	5.0	70	50	
5	四	多様な語句について理解を深める					○		○					86.5	1.2	70	50	◎
5	五	文字の大きさ、配列などについて理解して書く					○		○					82.9	1.8	75	55	◎
5	六1	歴史的仮名遣いについて理解する					○		○					34.5	9.2	70	50	▼
5	六2	古文のおおよその内容を理解する					○		○					49.9	5.7	70	50	▼
5	六3	文語のきまりを踏まえて古文を読み、古典の世界に触れる					○		○	○				46.2	5.8	75	55	▼

[表5] 中学校2年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,058	64.1	6.4	70.3	50.3	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	5	67.9	4.2	69.0	49.0	
	書く	5	69.6	4.4	68.0	48.0	◎
	読む	5	48.6	10.8	67.0	47.0	
	漢字の読み	5	87.8	1.3	75.0	55.0	◎
	漢字の書き	5	47.0	14.9	70.0	50.0	▼
	語句に関する知識	7	63.7	4.0	72.1	52.1	
評価の観点	①話す・聞く	5	67.9	4.2	69.0	49.0	
	②書く	5	69.6	4.4	68.0	48.0	◎
	③読む	5	48.6	10.8	67.0	47.0	
	④知識・理解・技能	17	65.9	6.4	72.4	52.4	
問題形式	選択式	11	66.3	1.7	71.8	51.8	
	短答式	15	63.9	8.9	72.0	52.0	
	記述式	6	60.4	9.2	63.3	43.3	
活用	「活用」に関する問題	4	56.5	10.8	60.0	40.0	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況	
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式				短答式	記述式		十分達成
1	一	異なる立場や考えを想定して話す	○										○	○	78.6	5.4	65	45	◎
1	二	資料を効果的に活用して話す	○										○		61.1	6.3	70	50	
1	三	相手に分かりやすく話す	○								○				92.2	0.4	75	55	◎
1	四	話の論理的な構成や展開などに注意して話す	○								○				65.4	0.5	75	55	
1	五	話の材料を多様な方法で集め、整理する	○									○	○	42.2	8.6	60	40		
2	一	具体例を加えて書く	○									○		75.3	5.4	70	50	◎	
2	二	事実が相手に効果的に伝わるように工夫して書く	○								○			87.2	1.0	70	50	◎	
2	三	書いた文章を読み返し、構成を整え、分かりやすくする	○								○			46.2	2.4	75	55	▼	
3	一	自分の伝えたいことを明確にする	○								○			76.7	7.0	65	45	◎	
3	二	文章の構成について工夫する	○									○	○	62.8	6.6	60	40	◎	
4	一	登場人物の描写を注意して読み、作品中の役割を理解する	○								○			55.0	1.8	65	45		
4	二	自分の考えをまとめるための根拠を明確にする	○									○		33.7	22.7	70	50	▼	
4	三	心情を表す語句に注意して読む	○								○			33.8	2.5	70	50	▼	
4	四	情報と関連付けながら読む	○									○	○	42.3	22.9	55	35		

設問別集計結果

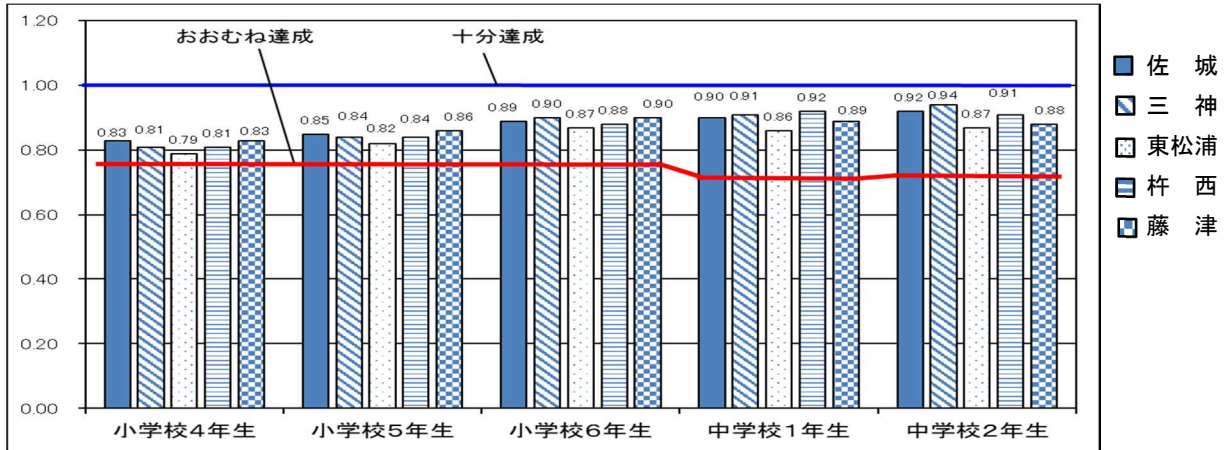
問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式		活用「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式				記述式	十分達成	
4	五	集めた情報について真偽を見極める			○				○		○			78.3	4.1	75	55	◎
5	一1	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「産卵」			○				○		○			96.8	0.9	75	55	◎
5	一2	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字)「探る」			○				○		○			98.6	0.5	75	55	◎
5	一3	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「納得」			○				○		○			98.9	0.5	75	55	◎
5	一4	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字)「提げる」			○				○		○			72.7	1.8	75	55	
5	一5	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「申告」			○				○		○			72.1	2.8	75	55	
5	二1	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「米穀」				○			○		○			20.6	19.7	70	50	▼
5	二2	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「傷み」				○			○		○			30.9	11.8	70	50	▼
5	二3	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「貧困」				○			○		○			42.5	29.9	70	50	▼
5	二4	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「危ない」				○			○		○			87.3	6.7	70	50	◎
5	二5	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「週刊」				○			○		○			53.6	6.5	70	50	
5	三	単語の類別について理解する				○			○		○			34.3	2.1	70	50	▼
5	四1	文脈の中で語句や語彙を正しく使う「開ける」				○			○		○			96.5	0.9	70	50	◎
5	四2	文脈の中で語句や語彙を正しく使う「治める」				○			○		○			81.2	1.0	70	50	◎
5	五	漢字の行書の基礎的な書き方を理解する				○			○		○			59.5	1.9	75	55	
5	六1	現代語訳を手掛かりにして作品の内容を理解する				○			○		○			54.0	7.8	70	50	
5	六2	歴史的仮名遣いについて理解する				○			○		○			54.1	5.0	75	55	▼
5	六3	古典に表れたものの見方に触れ、筆者の思いを想像する				○			○		○			65.8	9.2	75	55	

(4) 地域別の状況

- 県内5地域における学年別平均正答率の「十分達成」に対する状況は、全ての学年で5地域とも「おおむね達成」の基準に達している。[グラフ12]
- 県内5地域における学年別平均正答率の対県比は[表6]のとおりで、中学校1年生と中学校2年生で地域差が最も大きい。また、4月調査と比べて小学校5年生と小学校6年生で地域差が縮小し、中学校1年生で地域差が拡大している。

[グラフ12] 県内5地域における学年別平均正答率の「十分達成」に対する状況

※ 各学年における「十分達成」の到達基準を1.00として算出



[表6] 県内5地域における学年別平均正答率の対県比

学年・教科	実施年度	対県比(地域平均正答率/県平均正答率)					地域差	
		佐城	三神	東松浦	杵西	藤津		
小学校4年生	国語	H29[12月]	1.01	0.99	0.97	1.00	1.02	0.05
	H29[4月]	-	-	-	-	-	-	
小学校5年生	国語	H29[12月]	1.01	1.00	0.98	1.00	1.02	縮 0.04
	H29[4月]	1.03	0.97	0.95	1.00	1.06	▲ 0.11	
小学校6年生	国語	H29[12月]	1.00	1.02	0.98	0.99	1.02	縮 0.04
	H29[4月]	1.01	1.02	0.96	0.98	1.02	0.06	
中学校1年生	国語	H29[12月]	1.00	1.02	0.95	1.02	0.99	拡 0.07
	H29[4月]	1.00	1.02	0.97	1.01	0.99	0.05	
中学校2年生	国語	H29[12月]	1.01	1.03	0.96	1.00	0.97	0.07
	H29[4月]	1.00	1.02	0.97	1.01	0.95	0.07	

※ 「対県比」は、県平均正答率を1.00として算出

※ 「地域差」は、対県比の最大値と最小値の差を表す

※ 「▲」は、地域差が0.10以上の教科を示す

※ 「縮」は、平成29年度[4月調査]より地域差が縮小した教科を、「拡」は拡大した教科を示す

※ 地域及び市町名

地域名	市町名
佐城	佐賀市、多久市、小城市
三神	鳥栖市、神埼市、吉野ヶ里町、基山町、みやき町、上峰町
東松浦	唐津市、玄海町
杵西	武雄市、伊万里市、白石町、大町町、江北町、有田町
藤津	鹿島市、嬉野市、太良町

Ⅲ 教科ごとの調査結果とその分析

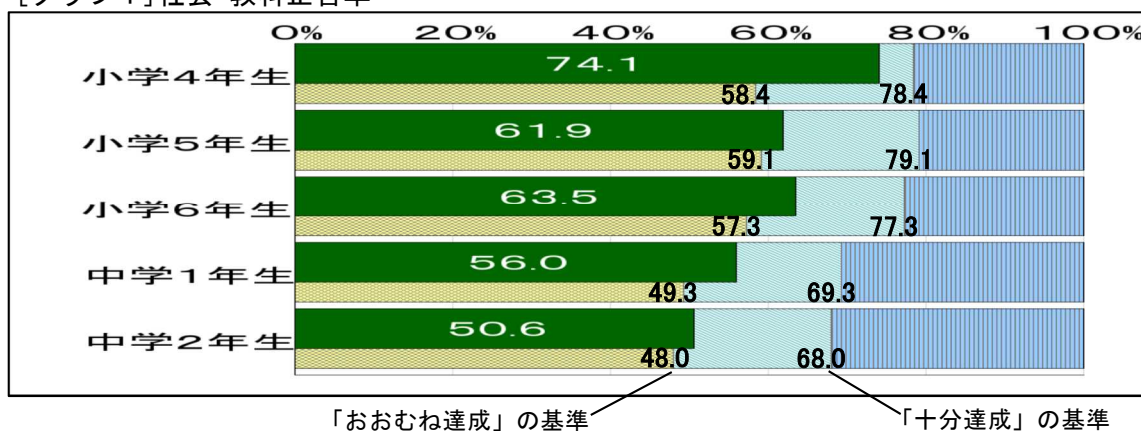
社 会

◎ 社会

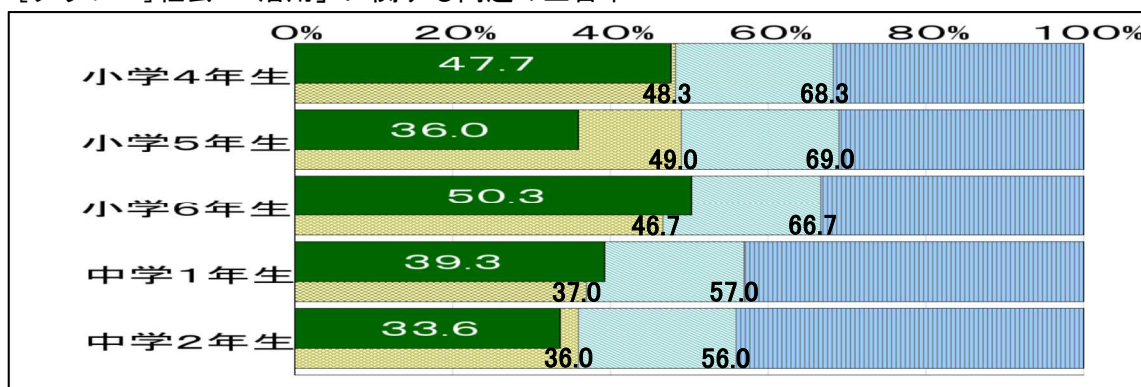
(1) 結果の概要

- 教科正答率は、小・中学校共に全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。
[グラフ1]
- 「活用」に関する問題については、小学4年生と小学5年生、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ2]
- 観点別に見ると、小学4年生と小学6年生、中学1年生は、全ての観点で「おおむね達成」の基準を上回っている。「観察・資料活用（資料活用）の技能」「社会的事象についての知識・理解」については、小・中学校共に全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。特に、「社会的事象についての知識・理解」については、小学4年生で「十分達成」の基準を上回っている。「社会的な思考・判断・表現」については、小学5年生と中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ3～5]
- 内容・領域別に見ると、小学4年生の「地域の生産や販売」「安全を守る」、中学1年生の「世界の生活と環境」については、「十分達成」の基準を上回っている。小学5年生の「国土の様子」「食料生産の様子」、小学6年生の「工業の様子（5年の学習内容）」、中学1年生の「歴史の捉え方」、中学2年生の「世界の諸地域」「中世」については、「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ6～10]

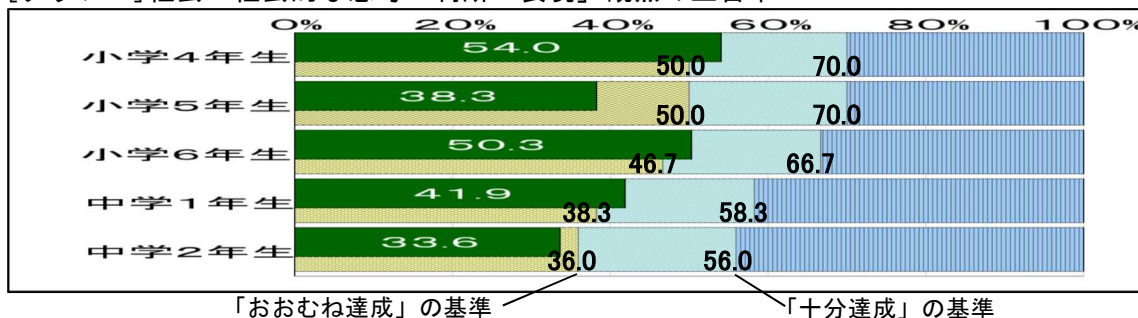
[グラフ1]社会 教科正答率



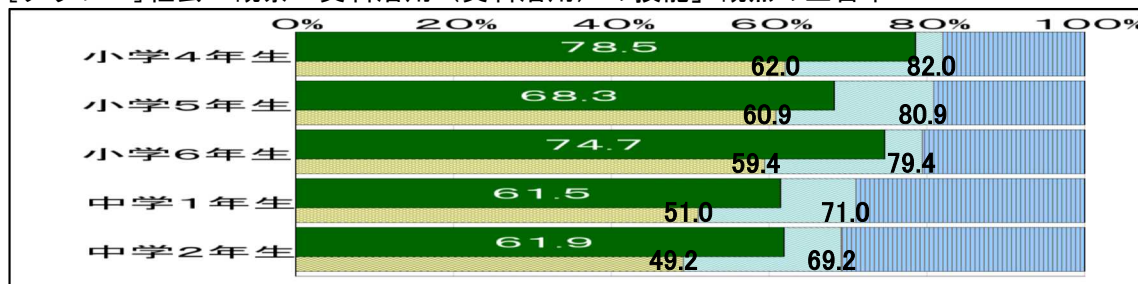
[グラフ2]社会 「活用」に関する問題の正答率



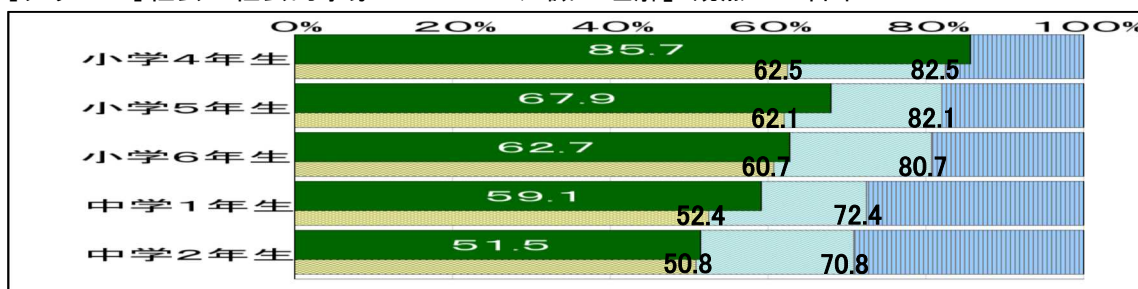
[グラフ3]社会「社会的な思考・判断・表現」観点の正答率



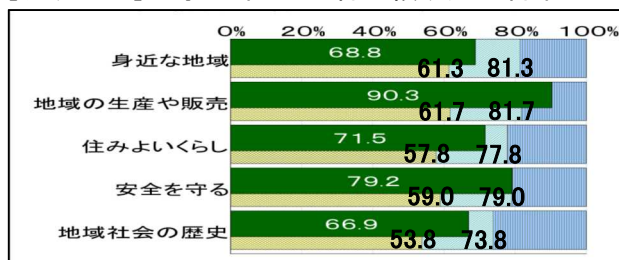
[グラフ4]社会「観察・資料活用（資料活用）の技能」観点の正答率



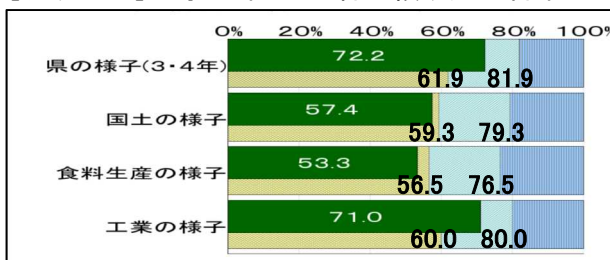
[グラフ5]社会「社会的事象についての知識・理解」観点の正答率



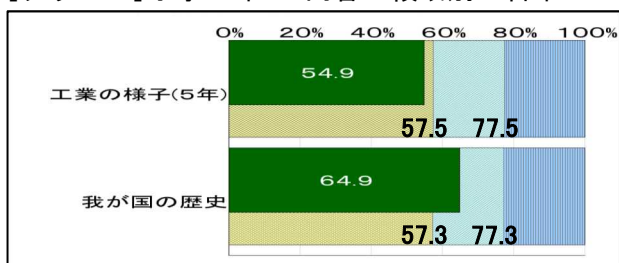
[グラフ6]小学4年生 内容・領域別正答率



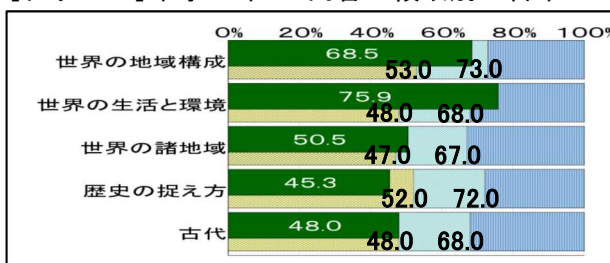
[グラフ7]小学5年生 内容・領域別正答率



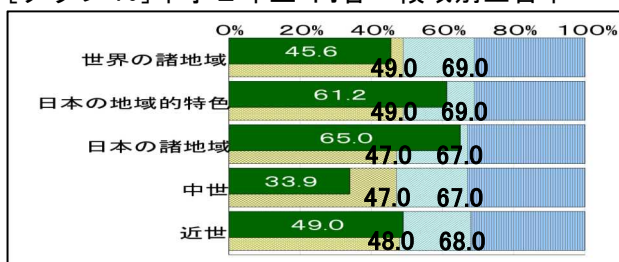
[グラフ8]小学6年生 内容・領域別正答率



[グラフ9]中学1年生 内容・領域別正答率



[グラフ10]中学2年生 内容・領域別正答率



※ [グラフ7]の「県の様子(3・4年)」という表記は、第3・4学年で学習する内容であることを示している。

※ [グラフ8]の「工業の様子(5年)」という表記は、第5学年で学習する内容であることを示している。

(2) 成果と課題及び指導改善のポイント


小学校社会（小学4年生、小学5年生、小学6年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 県の様子や住みよいくらしなどの地域社会に関する知識が身に付いている。
(小学4年生³₂⁵(1)、小学5年生¹(1))
- ◇ 資料から必要な情報を読み取ったり、適切な資料を選択したりする技能が身に付いている。
(小学4年生²(1)(2)、小学6年生⁸(2))
- ◆ 1 資料から読み取った情報を基に、気付きや疑問をもち、学習のめあて（学習問題）を考えることに一部課題が見られる。
(小学4年生³(1)、小学5年生⁴(2))
- ◆ 2 複数の資料から読み取った情報を基に、考えたことを表現することに課題が見られる。
(小学4年生⁵(4)、小学5年生³(3)⁶(2))
- ◆ 3 国土や産業、歴史上の主な事象に関する知識の習得に課題が見られる。
(小学5年生²(2)(4)、小学校6年生¹(2)³(3))

指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック☑してみましょう。）

- ◆ 1 資料から読み取った情報を基に、気付きや疑問をもち、学習のめあて（学習問題）を考える力を育成するためには、「課題をつかむ」過程において、次のような指導を行うことが大切です。
 - 児童にとって身近な資料や児童が疑問をもつような資料を提示していますか。
 - 児童から疑問や予想を引き出すために、資料の提示の仕方を工夫していますか。
 - 児童の発言に対して、“ゆさぶる発問”をするなどして、児童の「もっと詳しく調べたい」というような意欲を高めるようにしていますか。
 - 児童の気付きや疑問を生かして学習のめあて（学習問題）をつくるようにしていますか。
- ◆ 2 資料から読み取った情報を基に、考えたことを表現する力を育成するためには、「調べる」過程において、次のような指導を行うことが大切です。
 - 「なぜ～だろうか?」「どうすればよい（よかった）のだろうか?」というような発問をして、グループや学級全体で話し合うときのテーマを設定していますか。
 - 児童が、自分の考えを書いたり、話したりするときに、「なぜなら・・・」「理由は・・・」などの言葉を使って、根拠となる事実を表現できるように指導していますか。
 - 児童の説明が不足しているときに、「なぜ～だったら～になるのですか?」といったような問い返しの発問をしていますか。
- ◆ 3 国土や産業、歴史上の主な事象に関する知識を習得させるためには、「調べる」過程や「考え・まとめる」過程において、次のような指導を行うことが大切です。
 - 「調べる」過程では、グループや学級全体で話し合う際に、学習した用語を使ったり、自分の言葉で説明したりできるように指導を行っていますか。
 - 「考え・まとめる」過程では、国土の様子や工業地域の分布などを図示したり、人物が行ったことをワークシートやカードにまとめたりする際に、学習した用語を使ったり、自分の言葉でまとめたりするように指導を行っていますか。

 ぜひ ご活用ください! → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターのプロジェクト研究では、学習状況調査から見える課題の解決に向けた授業づくりに取り組んでいます。単元を通して、児童が主体的に問い、調べ、考え、表現することができるような授業づくりのポイントについて提案しています。授業づくりに役立ててください。

中学校社会（中学1年生、中学2年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 地理的分野において、社会的事象に関する基本的な知識が身に付いている。
(中学1年生 $\boxed{1}\boxed{1}\boxed{3}\boxed{2}\boxed{1}\boxed{3}$ 、中学2年生 $\boxed{2}\boxed{2}\boxed{1}\boxed{3}\boxed{1}\boxed{2}\boxed{3}$)
- ◇ 資料から適切な情報を読み取ったり、適切な資料を選択したりする技能が身に付いている。
(中学1年生 $\boxed{2}\boxed{2}\boxed{5}$ 、中学2年生 $\boxed{6}\boxed{1}\boxed{1}\boxed{2}\boxed{4}$)
- ◆ 1 歴史的分野において、歴史の捉え方や政治の経過の理解に課題が見られる。
(中学1年生 $\boxed{4}\boxed{1}\boxed{2}\boxed{4}\boxed{5}$ 、中学2年生 $\boxed{6}\boxed{2}\boxed{3}$)
- ◆ 2 歴史的分野において、社会的事象に関する基本的な知識の理解に課題が見られる。
(中学1年生 $\boxed{5}\boxed{4}\boxed{6}\boxed{3}$ 、中学校2年生 $\boxed{4}\boxed{1}\boxed{2}\boxed{3}\boxed{5}\boxed{1}\boxed{6}\boxed{2}\boxed{1}\boxed{2}$)
- ◆ 3 資料を基に、社会的事象の特色や事象間を関連付けて説明することや、社会的事象の意味や意義を解釈し理由を説明することに課題が見られる。
(中学1年生 $\boxed{5}\boxed{3}\boxed{5}$ 、中学2年生 $\boxed{3}\boxed{4}\boxed{4}\boxed{4}\boxed{5}\boxed{3}$)

指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック☑してみましょう。）

- ◆ 1 歴史学習の基盤となる時代区分や年代の表し方、時代の流れを理解できるようにするためには、生徒が時代を大観することができるような指導を行うことが大切です。
 - 単元の導入等において、小学校で学習してきた歴史上の人物や出来事などの知識を想起させ、生徒が発表したりまとめたりしながら、時代ごとのイメージをもてるようにしていますか。
 - 時代ごとの学習に取り組む際も、ICT機器、ワークシートなどを活用して年表を提示することにより、時代の流れや前後の関連を確かめることができるようにするとともに、時代区分や年代の表し方などについても継続的・計画的に振り返らせていますか。
- ◆ 2 社会的事象に関する基礎的・基本的な知識を習得させるためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 一問一答形式の小テストや重要語句を記憶しているかを確認するような発問を行うだけではなく、生徒が社会的事象の意味を考えたり、事象の特色や事象間の関連を説明したりするような発問を行ったり、活動を位置付けたりしていますか。
 - 単元や授業のまとめをする際に、生徒が、本単元や本時で学習したことや既習事項を用いて、自分の言葉で説明したり、ワークシートにまとめたりする活動を設定していますか。
- ◆ 3 資料から読み取った情報を基に、社会的事象の特色や事象間を関連付けて説明する力や、社会的事象の意味や意義を解釈し理由を説明する力を育成するためには、課題を追究したり解決したりする活動を授業に位置付けることが大切です。
 - 生徒が興味を示したり、疑問をもったりするような、社会的事象に関する具体的な事実を示す写真やグラフなどの資料を提示するなどして、生徒の関心を高めていますか。
 - 生徒の疑問や気付きから「なぜ～?」「どのように（な）～?」など、単元を通した課題を設定し、単元を通して、その課題を生徒が追究したり解決したりする活動を設定していますか。
 - 課題を追究したり解決したりする活動の中で、生徒が資料から読み取った情報を基に、理由を考えたり、自分の考えを説明したりするような活動を設定していますか。
 - 生徒が自分の考えを説明する際に、そのように考えた根拠を示したり、そのように考えた理由を述べたりすることができるように指導していますか。



ぜひ ご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターのプロジェクト研究では、学習状況調査から見える課題の解決に向けた授業づくりに取り組んでいます。「意思決定を取り入れた討論型の学習」を基にした単元づくりの中で、学習問題を設定して意思決定を迫る学習活動について提案しています。授業づくりに役立ててください。

(3) 各学年の設問ごとの正答率

[表1] 小学校4年生 社会 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,424	74.1	1.8	78.4	58.4	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	身近な地域	4	68.8	1.9	81.3	61.3	
	地域の生産や販売	3	90.3	0.4	81.7	61.7	◎
	住みよいくらし	9	71.5	1.7	77.8	57.8	
	安全を守る	5	79.2	1.7	79.0	59.0	◎
	地域社会の歴史	4	66.9	2.8	73.8	53.8	
評価の観点	①思考・判断・表現	8	54.0	3.6	70.0	50.0	
	②技能	5	78.5	0.8	82.0	62.0	
	③知識・理解	12	85.7	1.0	82.5	62.5	◎
問題形式	選択式	9	86.2	0.6	82.2	62.2	◎
	短答式	9	79.3	1.4	81.7	61.7	
	記述式	7	51.9	3.7	69.3	49.3	
活用	「活用」に関する問題	6	47.7	4.0	68.3	48.3	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		身近な地域	地域の生産や販売	住みよいくらし	安全を守る	地域社会の歴史	①思考・判断・表現	②技能	③知識・理解	選択式				短答式	十分達成	
1	(1) 地図から、学校周辺の様子を読み取ることができる	○					○		○			69.2	0.3	85	65	
1	(2)ア 主な地図記号を理解している(警察署)	○					○		○			64.5	1.0	85	65	▼
1	(2)イ 主な地図記号を理解している(消防署)	○					○		○			89.5	0.9	85	65	◎
1	(3) 資料から必要な情報を読み取り、条件に合わせて説明することができる	○					○			○	○	51.9	5.5	70	50	
2	(1) 資料から、販売に関する仕事に見られる工夫や努力を読み取ることができる	○					○		○			90.0	0.3	85	65	◎
2	(2) 資料から、品物の産地を読み取ることができる	○					○		○			95.8	0.6	80	60	◎
2	(3) 様々な店の特徴を理解している	○					○		○			85.2	0.4	80	60	◎
3	(1) 資料と発言の内容を基に、ごみの処理についての学習問題を考えることができる		○				○			○	○	51.0	2.5	70	50	
3	(2)① 清掃工場の仕組みを理解している(ごみピット)		○				○		○			94.1	0.4	85	65	◎
3	(2)② 清掃工場の仕組みを理解している(焼却炉)		○				○		○			97.9	0.4	85	65	◎
3	(3) ノートに示されているごみ削減の工夫を資料から読み取ることができる		○				○		○			85.4	0.5	80	60	◎
3	(4) 資料を基に、ごみ収集の工夫について説明することができる		○				○			○	○	51.7	4.1	65	45	
4	(1) 森林の働きを理解している		○				○		○			65.2	2.0	80	60	
4	(2) 浄水場の働きを理解している		○				○		○			68.8	0.6	80	60	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の 内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待 正答率		到達状況
		身近な地域	地域の生産や販売	住みよいくらし	安全を守る	地域社会の歴史	①思考・判断・表現	②技能	③知識・理解	選択式				短答式	十分達成	
4	(3)	資料から、人口の変化と水の使用量の変化を読み取ることができる	○							○		52.1	2.2	80	60	▼
4	(4)	学校や学級でできる節水の方法について考えることができる	○							○		77.3	2.4	75	55	◎
5	(1) 資料1	人々の安全を守る警察の仕事を理解している		○						○		95.9	0.6	85	65	◎
5	(1) 資料2	人々の安全を守る警察の仕事を理解している		○						○		94.7	0.6	85	65	◎
5	(2)	110番に電話を掛けると、どこにつながるかを理解している		○						○		89.4	0.8	80	60	◎
5	(3)	資料を基に、地域で行っている子供の安全を守るための工夫について考えることができる		○						○		68.7	2.2	75	55	
5	(4)	資料を基に、事故を防ぐための工夫について説明することができる		○							○	47.3	4.3	70	50	▼
6	(1)	古くから残る暮らしに関わる道具を理解している(かまやかまど・そろばん)			○					○		97.1	0.9	80	60	◎
6	(2)	昔と今の道具を示した資料を基に、人々の暮らしの変化について説明することができる			○						○	47.8	2.6	70	50	▼
6	(3)	資料を基に、昔の人々の生活のよさについて考えることができる			○						○	36.5	4.8	65	45	▼
6	(4)	地域の年中行事には、受け継がれている願いがあることを理解している			○					○		86.3	2.8	80	60	◎

[表2] 小学校5年生 社会 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,283	61.9	3.3	79.1	59.1	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	県の様子(3・4年)	8	72.2	0.9	81.9	61.9	
	国土の様子	7	57.4	3.8	79.3	59.3	▼
	食料生産の様子	10	53.3	5.4	76.5	56.5	▼
	工業の様子	4	71.0	2.1	80.0	60.0	
評価の観点	①思考・判断・表現	6	38.3	6.4	70.0	50.0	▼
	②技能	11	68.3	1.5	80.9	60.9	
	③知識・理解	12	67.9	3.4	82.1	62.1	
問題形式	選択式	12	71.8	0.7	80.8	60.8	
	短答式	11	65.7	4.2	82.3	62.3	
	記述式	6	35.3	7.0	70.0	50.0	▼
活用	「活用」に関する問題	5	36.0	7.3	69.0	49.0	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		県の様子(3・4年)	国土の様子	食料生産の様子	工業の様子	①思考・判断・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				十分達成	おおむね達成	
1	(1)	自分が通う小学校がある市や町の地理的な位置を理解している(※)	○				○		○			88.3	1.2	85	65	◎
1	(2)①	地図から、県内の特色ある地形の様子を読み取ることができる(有明海)	○				○		○			59.2	0.3	80	60	▼
1	(2)②	地図から、県内の特色ある地形の様子を読み取ることができる(背振山地)	○				○		○			85.5	0.3	80	60	◎
1	(2)③	地図から、県内の特色ある地形の様子を読み取ることができる(玄界灘)	○				○		○			68.8	0.4	80	60	
1	(2)④	地図から、県内の特色ある地形の様子を読み取ることができる(佐賀平野)	○				○		○			69.9	0.4	80	60	
1	(3)ア	地図から、佐賀県の周りの県を理解している(福岡県)	○				○		○			85.5	1.4	85	65	◎
1	(3)イ	地図から、佐賀県の周りの海を理解している(有明海)	○				○		○			66.3	2.6	85	65	
1	(4)	都道府県の名称と位置を理解している(鳥根県・高知県)	○				○		○			53.9	0.3	80	60	▼
2	(1)	世界の大陸の名称と位置を理解している(アフリカ大陸・南アメリカ大陸)	○				○		○			79.3	0.1	85	65	
2	(2)	経線と緯線を理解している	○				○		○			32.6	8.9	80	60	▼
2	(3)	地図から、日本の位置を読み取ることができる	○				○		○			75.1	2.6	80	60	
2	(4)	南鳥島と沖ノ鳥島が属する都道府県が東京都であることを理解している	○				○		○			48.7	5.3	80	60	▼
3	(1)	日本の気候の特色について理解している	○				○		○			75.9	0.3	80	60	
3	(2)	資料から、外国の川と比較した日本の川の特色について読み取ることができる	○				○		○			68.4	0.9	80	60	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		県の様子(3・4年)	国土の様子	食料生産の様子	工業の様子	①思考・判断・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				記述式	十分達成	
3	(3)	資料を基に、富山市で冬の降水量が多い理由について説明することができる	○					○		○	○	21.9	8.7	70	50	▼
4	(1)	資料から、米作りが盛んな地域を読み取ることができる	○					○				74.2	0.3	80	60	
4	(2)	資料と発言の内容を基に、生産地と消費地を結ぶ運輸の働きについての学習のめあてを考えることができる	○					○		○	○	25.4	7.4	70	50	▼
4	(3)	新しい品種をつくり出すことが品種改良であることを理解している	○						○			58.9	8.5	80	60	▼
4	(4)	資料から、生産調整が行なわれた理由について読み取ることができる	○					○			○	31.5	5.3	75	55	▼
5	(1)	プランクトンや魚がよく集まるところが大陸棚であることを理解している	○						○			67.2	7.2	85	65	
5	(2)	資料から、日本近海の海流を読み取ることができる	○					○			○	69.5	2.6	85	65	
5	(3)	資料を基に、水産資源の保護を行っている理由について説明することができる	○					○		○	○	52.5	5.8	70	50	
6	(1)	資料から、国産の食料が外国産よりも値段が高いことを読み取ることができる	○					○			○	73.3	2.2	85	65	
6	(2)	資料を基に、食料を輸入に依存することで起こると考えられる問題点について説明することができる	○					○			○	27.0	5.9	70	50	▼
6	(3)	資料を基に、循環型の農業の良い点について説明することができる	○					○			○	53.2	8.9	65	45	
7	(1)	資料から、自動車の生産過程を読み取ることができる		○				○				76.2	1.3	85	65	
7	(2)	自動車の組み立て工場と関わりを持つ工場が関連工場であることを理解している		○					○			77.6	3.4	80	60	
7	(3)	自動車を海外で現地生産していることを理解している		○					○			80.6	1.5	80	60	◎
7	(4)	資料を基に、環境にやさしい自動車づくりについて考えることができる		○				○				49.6	2.0	75	55	▼

[表3] 小学校6年生 社会 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,085	63.5	3.4	77.3	57.3	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	工業の様子(5年)	4	54.9	2.7	77.5	57.5	▼
	我が国の歴史	24	64.9	3.5	77.3	57.3	
評価の観点	①思考・判断・表現	6	50.3	4.2	66.7	46.7	
	②技能	8	74.7	0.7	79.4	59.4	
	③知識・理解	14	62.7	4.6	80.7	60.7	
問題形式	選択式	12	70.6	0.4	80.4	60.4	
	短答式	8	61.4	6.7	80.6	60.6	
	記述式	8	54.8	4.5	69.4	49.4	
活用	「活用」に関する問題	6	50.3	4.2	66.7	46.7	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等			評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		工業の様子(5年)	我が国の歴史		①思考・判断・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				十分達成	おおむね達成	
1	(1) 工業地帯の位置と名称を理解している	○				○		○			37.5	0.3	80	60	▼
1	(2) 工業生産が盛んな地域が太平洋ベルト(地帯)であることを理解している	○				○		○			57.0	7.1	85	65	▼
1	(3) 資料から、中小工場と比較した大工場の特徴について読み取ることができる	○				○		○			75.4	0.6	80	60	
1	(4) 資料を基に、自動車工場と関連工場が海沿いに広がっている理由について説明することができる	○				○		○	○		49.7	3.0	65	45	
2	(1) 中大兄皇子と中臣鎌足が天皇中心の国づくりを目指したことを理解している	○				○		○			82.7	0.1	85	65	
2	(2) 資料を基に、天皇の力が全国に及んだことについて説明することができる	○				○		○	○		32.1	4.9	65	45	▼
2	(3) 源氏物語と枕草子の作者がそれぞれ紫式部と清少納言であることを理解している	○				○		○			74.9	0.2	80	60	
2	(4) 平安時代の文化を示す資料を選ぶことができる	○				○		○			71.0	0.2	80	60	
3	(1) 資料から、源氏と平氏の戦いの正しい順序を読み取ることができる	○				○		○			75.5	0.2	80	60	
3	(2) 御恩と奉公の内容を理解している	○				○		○			83.2	0.2	80	60	◎
3	(3) 元寇の時の幕府の執権が、北条時宗であることを理解している	○				○		○			38.8	8.4	80	60	▼
4	(1) 現在の和室の基になった建築様式が書院造であることを理解している	○				○		○			70.8	3.0	80	60	
4	(2) 水墨画を完成した人物が雪舟であることを理解している	○				○		○			71.0	7.5	80	60	
4	(3) 能の様子を示した資料を選ぶことができる	○				○		○			70.3	0.5	80	60	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		我が国の歴史	工業の様子(5年)	①思考・判断・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式	十分達成	おおむね達成						
4	(4)	資料を基に、室町時代の文化の特色について説明することができる	○								○	○	75.9	2.0	70	50	◎
5	(1)	織田信長が行った商業政策を理解している	○					○			○		53.3	8.7	80	60	▼
5	(2)	検地を示す資料を選ぶことができる	○					○		○			56.9	0.3	80	60	▼
5	(3)	資料を基に、島原・天草一揆の後に、江戸幕府が調査を行った理由について説明することができる	○					○			○	○	36.0	7.4	65	45	▼
6	(1)	資料を基に、江戸時代から明治時代にかけて起こった生活や文化の変化が、鎖国が終わったことに起因していることを説明することができる	○					○			○	○	53.3	3.6	65	45	
6	(2)	資料から、明治の学校と今の学校の似ている点について読み取ることができる	○					○			○		83.4	2.3	75	55	◎
6	(3)	板垣退助が主張した自由民権運動を理解している	○					○			○		66.3	4.8	80	60	
6	(4)	富国強兵に関係する政策を示した資料を選ぶことができる	○					○			○		69.1	0.6	80	60	
7	(1)	野口英世の業績について理解している	○					○			○		90.0	0.5	80	60	◎
7	(2)	日露戦争で活躍した人物が東郷平八郎であることを理解している	○					○			○		44.9	14.0	80	60	▼
7	(3)	資料を基に、日露戦争終了後に人々が不満をもった理由について説明することができる	○					○			○	○	54.8	4.0	70	50	
8	(1)	戦時中に食料品や生活用品を配給したことが配給制(切符制)であることを理解している	○					○			○		67.0	8.1	80	60	
8	(2)	資料から、戦時中の国民の生活の様子を読み取ることができる	○					○			○		96.4	0.7	80	60	◎
8	(3)	終戦直前に、満州や樺太南部、千島列島にソビエト連邦(ソ連)が攻め込んできたことを理解している	○					○			○		40.1	1.2	80	60	▼

[表4] 中学校1年生 社会 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	6,989	56.0	5.8	69.3	49.3	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	世界の地域構成	5	68.5	1.5	73.0	53.0	
	世界の生活と環境	5	75.9	3.0	68.0	48.0	◎
	世界の諸地域	5	50.5	8.5	67.0	47.0	
	歴史の捉え方	5	45.3	4.7	72.0	52.0	▼
	古代	10	48.0	8.6	68.0	48.0	
評価の観点	①思考・判断・表現	6	41.9	13.3	58.3	38.3	
	②技能	5	61.5	0.8	71.0	51.0	
	③知識・理解	19	59.1	4.8	72.4	52.4	
問題形式	選択式	13	60.0	0.8	70.8	50.8	
	短答式	12	58.7	7.2	72.9	52.9	
	記述式	5	39.3	15.6	57.0	37.0	
活用	「活用」に関する問題	5	39.3	15.6	57.0	37.0	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点	問題形式	活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		世界の地域構成	世界の生活と環境	世界の諸地域	歴史の捉え方	古代						①思考・判断・表現	②技能	
1	(1)	インド洋の位置と名称を理解している	○					○		86.8	0.7	75	55	◎
1	(2)	資料に示された地点の緯度と経度を読み取ることができる	○					○		39.2	0.3	70	50	▼
1	(3)	世界で最も面積が大きい国がロシア連邦であることを理解している	○					○		82.7	1.4	75	55	◎
1	(4)	経度0度の経線が本初子午線であることを理解している	○					○		69.4	4.8	75	55	
1	(5)	中心からの距離と方位が正しく表されている地図の特徴を理解している	○					○		64.5	0.4	70	50	
2	(1)	冷帯(亜寒帯)の特徴を理解している	○					○		82.6	0.3	70	50	◎
2	(2)	資料から、東京の雨温図を読み取ることができる	○					○		82.8	0.3	75	55	◎
2	(3)	標高の高い地域に住む人々の生活の様子を理解している	○					○		91.5	0.4	70	50	◎
2	(4)	資料を基に、同じ熱帯でも植生が異なる理由を説明することができる	○					○	○	44.1	13.1	55	35	
2	(5)	資料から、世界の宗教の分布の特徴を読み取ることができる	○					○		78.7	0.7	70	50	◎
3	(1)①	アルプス山脈とドナウ川の位置と名称を理解している	○					○		30.8	0.4	75	55	▼
3	(1)②	緯度が高いわりに年平均気温が高い理由が北大西洋海流と偏西風の影響であることを理解している	○					○		54.3	4.0	70	50	
3	(1)③	資料を基に、地中海沿岸の国でワインの輸出が多い理由を、地中海性気候の特徴と関連付けて説明することができる	○					○	○	60.2	9.8	60	40	◎
3	(2)①	ヨーロッパ諸国の人々が現地の人々を労働者として雇っていた大規模な農園がプランテーションであることを理解している	○					○		65.9	14.3	75	55	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点			問題形式			活用「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		世界の地域構成	世界の生活と環境	世界の諸地域	歴史の捉え方	古代	①思考・判断・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式				十分達成	おおむね達成	
3	(2)②				○							○	○	41.5	13.9	55	35	
4	(1)					○								32.3	12.4	75	55	▼
4	(2)					○								43.8	5.0	70	50	▼
4	(3)					○								68.8	0.6	70	50	
4	(4)					○								54.8	4.4	75	55	▼
4	(5)					○								26.6	0.9	70	50	▼
5	(1)						○							45.9	0.8	70	50	▼
5	(2)						○							69.1	12.4	75	55	
5	(3)						○							35.1	15.8	60	40	▼
5	(4)						○							18.1	10.3	70	50	▼
5	(5)						○							15.6	25.5	55	35	▼
6	(1)						○							72.9	7.6	70	50	◎
6	(2)						○							54.2	9.1	70	50	
6	(3)						○							52.9	1.4	75	55	▼
6	(4)						○							54.9	1.6	65	45	
6	(5)						○							61.1	1.8	70	50	

[表5] 中学校2年生 社会 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,050	50.6	11.0	68.0	48.0	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	世界の諸地域	5	45.6	7.3	69.0	49.0	▼
	日本の地域的特色	5	61.2	8.3	69.0	49.0	
	日本の諸地域	5	65.0	10.9	67.0	47.0	
	中世	5	33.9	12.5	67.0	47.0	▼
	近世	10	49.0	13.6	68.0	48.0	
評価の観点	①思考・判断・表現	5	33.6	16.2	56.0	36.0	▼
	②技能	6	61.9	2.1	69.2	49.2	
	③知識・理解	19	51.5	12.5	70.8	50.8	
問題形式	選択式	10	52.1	1.7	68.5	48.5	
	短答式	16	54.7	14.6	70.9	50.9	
	記述式	4	30.4	19.9	55.0	35.0	▼
活用	「活用」に関する問題	5	33.6	16.2	56.0	36.0	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点	問題形式	活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況	
		世界の諸地域	日本の地域的特色	日本の諸地域	中世	近世						①思考・判断・表現	②技能		③知識・理解
1	(1)①	ロッキー山脈の位置と名称を理解している	○					○		48.6	6.6	75	55	▼	
1	(1)②	先端技術産業や情報技術産業の企業が集まる地域であるシリコンバレーを理解している	○					○		37.7	26.9	70	50	▼	
1	(1)③	五大湖周辺の工業の特徴を理解している	○					○		38.3	0.9	70	50	▼	
1	(2)	資料から、アメリカ合衆国の農業地域の特徴を読み取ることができる	○					○		56.6	1.1	70	50		
1	(3)	資料を基に、日本の農業と比べたアメリカ合衆国の農業の特徴を考察することができる	○					○	○	46.7	1.2	60	40		
2	(1)①	環太平洋造山帯を理解している	○					○		65.3	11.8	75	55		
2	(1)②	資料から、造山帯の特徴を読み取ることができる	○					○		61.8	3.8	70	50		
2	(2)①	電力の発電方法の1つである水力発電を理解している	○					○		87.5	2.6	75	55	◎	
2	(2)②	資料を基に、考えられる火力発電の問題を、日本のエネルギー資源の輸入依存度と採年数とを関連付けて説明することができる	○						○	○	39.6	10.4	55	35	
2	(2)③	再生可能エネルギーの1つである地熱を理解している	○					○		51.8	12.9	70	50		
3	(1)	阿蘇山の位置と名称を理解している		○				○		78.3	9.6	70	50	◎	
3	(2)	宮崎県の一部から鹿児島県の一部にかけて見られる火山灰土がシラスであることを理解している		○				○		83.1	9.9	70	50	◎	
3	(3)	北九州市の環境への取組を理解している		○				○		72.0	12.8	70	50	◎	
3	(4)	資料を基に、本州四国連絡橋や高速道路が自然災害時に迂回路として機能したことを説明することができる		○					○	○	33.6	20.5	55	35	▼

設問別集計結果

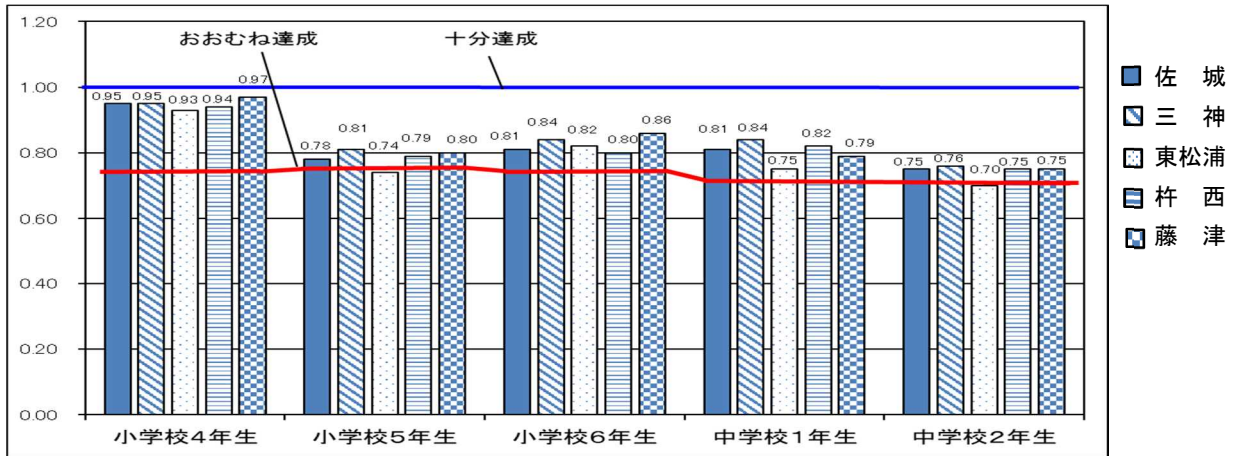
問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		世界の諸地域	日本の地域的特色	中世	近世	①思考・判断・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				記述式	十分達成	
3	(5)	過疎化や過疎化が進んでいる地域に見られる特徴を理解している	○					○				58.0	1.7	70	50	
4	(1)①	将軍と御家人との関係が、御恩と奉公の関係であることを理解している		○				○				52.4	9.8	70	50	
4	(1)②	鎌倉時代の農民が荘園領主と地頭による二重支配を受けていたことを理解している		○				○				9.1	13.9	70	50	▼
4	(2)	承久の乱の際、御家人に団結するように訴えた人物が北条政子であることを理解している		○				○				65.5	11.1	70	50	
4	(3)	室町時代の日本とその周辺の国や地域との関わりを理解している		○				○				24.7	1.7	70	50	▼
4	(4)	資料を基に、応仁の乱後に戦国時代へと変化した理由を説明することができる		○				○		○		17.7	26.1	55	35	▼
5	(1)	古代のギリシャやローマの文化を基にした新しい動きがルネサンスであることを理解している		○				○				32.0	33.0	70	50	▼
5	(2)	資料から、大航海時代の新航路とその航海者との関係を読み取ることができる		○				○				48.5	1.6	65	45	
5	(3)	資料を基に、ポルトガルなどのヨーロッパの国々が、インドなどのアジアの国々への新航路を開拓しようとした目的を説明することができる		○				○		○		30.6	22.8	55	35	▼
5	(4)	南蛮貿易を理解している		○				○				60.9	11.7	70	50	
6	(1)①	資料から、新田開発による耕地面積と石高の変化を読み取ることができる		○				○				75.1	1.9	70	50	◎
6	(1)②	資料から、江戸時代の農業技術の発展により開発された農具の使い方を読み取ることができる		○				○				56.2	1.6	70	50	
6	(2)①	改革の内容から、寛政の改革を行ったのが松平定信であることを理解している		○				○				39.0	24.9	70	50	▼
6	(2)②	公事方御定書を理解している		○				○				30.5	32.6	70	50	▼
6	(2)③	江戸時代の政治の経過を理解している		○				○				43.9	3.3	70	50	▼
6	(2)④	資料から、百姓一揆と打ちこわしの発生件数とききんによる人口の増減との関わりを読み取ることができる		○				○				73.2	2.4	70	50	◎

(4) 地域別の状況

- 県内5地域における学年別平均正答率の「十分達成」に対する状況は、小学校4年生と小学校6年生、中学校1年生で5地域とも「おおむね達成」の基準に達している。[グラフ11]
- 県内5地域における学年別平均正答率の対県比は[表6]のとおりで、中学校1年生で地域差が最も大きい。また、平成28年度12月調査と比べて小学校4年生と中学校2年生で地域差が縮小し、小学校5年生と小学校6年生、中学校1年生で地域差が拡大している。

[グラフ11] 県内5地域における学年別平均正答率の「十分達成」に対する状況

※ 各学年における「十分達成」の到達基準を1.00として算出



[表6] 県内5地域における学年別平均正答率の対県比

学年・教科	実施年度	対県比(地域平均正答率/県平均正答率)					地域差
		佐城	三神	東松浦	杵西	藤津	
小学校4年生 社会	H29[12月]	1.01	1.01	0.98	0.99	1.02	縮 0.04
	H28[12月]	1.01	1.00	0.97	1.00	1.02	0.05
小学校5年生 社会	H29[12月]	1.00	1.04	0.95	1.00	1.03	拡 0.09
	H28[12月]	1.00	1.03	0.98	0.99	1.00	0.05
小学校6年生 社会	H29[12月]	0.98	1.03	1.00	0.98	1.05	拡 0.07
	H28[12月]	1.00	0.98	0.99	1.01	1.02	0.04
中学校1年生 社会	H29[12月]	1.00	1.04	0.92	1.02	0.98	▲ 拡 0.12
	H28[12月]	0.99	1.03	0.94	1.03	1.03	0.09
中学校2年生 社会	H29[12月]	1.01	1.03	0.94	1.01	1.00	縮 0.09
	H28[12月]	0.99	1.05	0.90	1.02	1.06	▲ 0.16

※ 「対県比」は、県平均正答率を1.00として算出

※ 「地域差」は、対県比の最大値と最小値の差を表す

※ 「▲」は、地域差が0.10以上の教科を示す

※ 「縮」は、平成28年度[12月調査]より地域差が縮小した教科を、「拡」は拡大した教科を示す

※ 地域及び市町名

地域名	市町名
佐城	佐賀市、多久市、小城市
三神	鳥栖市、神埼市、吉野ヶ里町、基山町、みやき町、上峰町
東松浦	唐津市、玄海町
杵西	武雄市、伊万里市、白石町、大町町、江北町、有田町
藤津	鹿島市、嬉野市、太良町

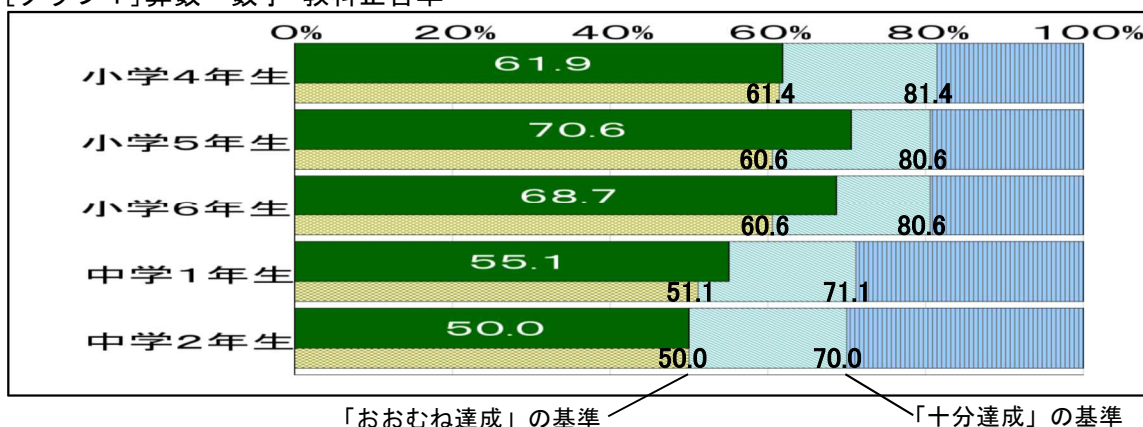
Ⅲ 教科ごとの調査結果とその分析

算数・数学

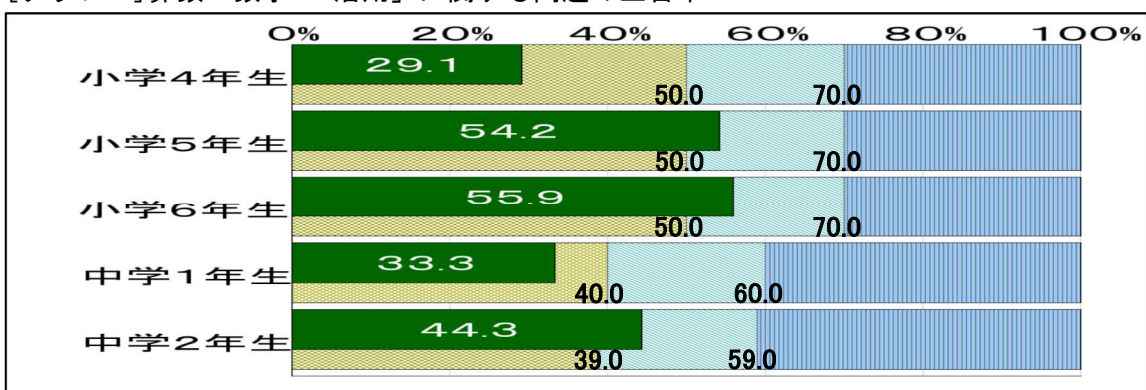
(1) 結果の概要

- 教科正答率は、小学校全ての学年、中学1年生で「おおむね達成」の基準を上回っている。中学2年生で「おおむね達成」の基準と同値である。[グラフ1]
- 「活用」に関する問題については、小学4年生と中学1年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ2]
- 観点別に見ると、小学5年生と小学6年生は、全ての観点で「おおむね達成」の基準を上回っている。「数量や図形についての（数学的な）技能」については、小・中学校の全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。「数学的な考え方（見方や考え方）」については、小学4年生と中学1年生、「数量や図形（など）についての知識・理解」については、小学4年生と中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ3～5]
- 内容・領域別に見ると、小学校では、「数と計算」「量と測定」については、全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。「図形」については、小学4年生と小学5年生、「数量関係」については、小学4年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。中学校では、「数と式」については、全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。「図形」「関数」「資料の活用」については、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ6～10]

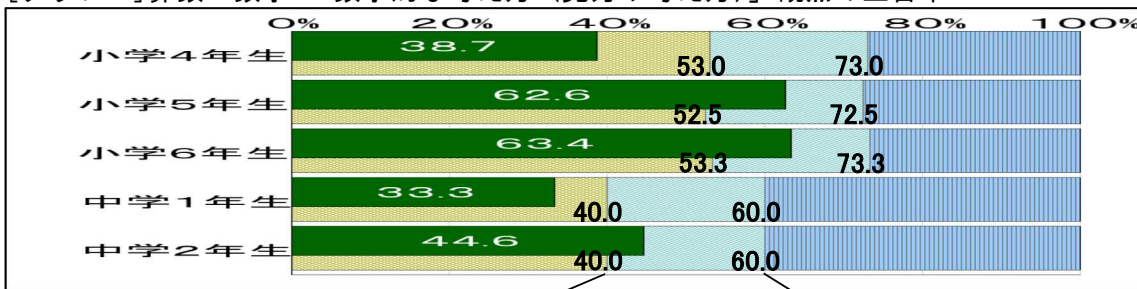
[グラフ1]算数・数学 教科正答率



[グラフ2]算数・数学 「活用」に関する問題の正答率



[グラフ3]算数・数学 「数学的な考え方（見方や考え方）」観点の正答率

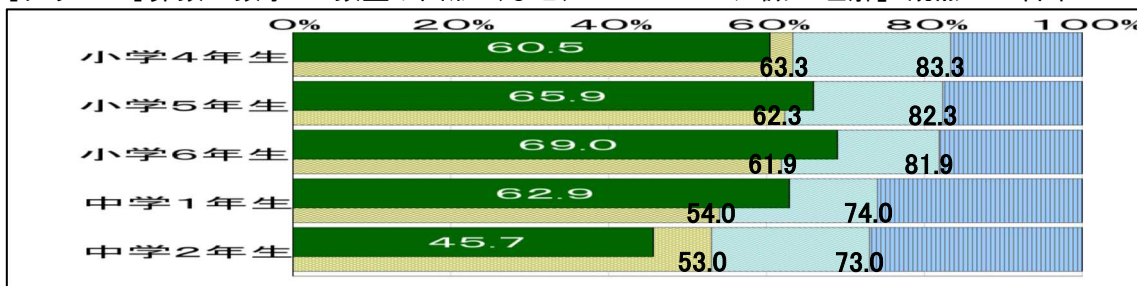


「おおむね達成」の基準 「十分達成」の基準

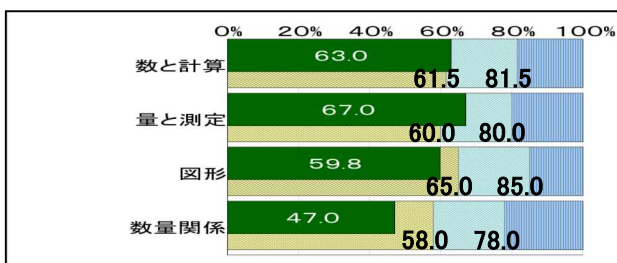
[グラフ4]算数・数学 「数量や図形についての（数学的な）技能」観点の正答率



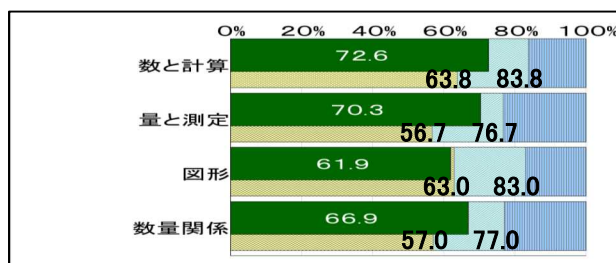
[グラフ5]算数・数学 「数量や図形（など）についての知識・理解」観点の正答率



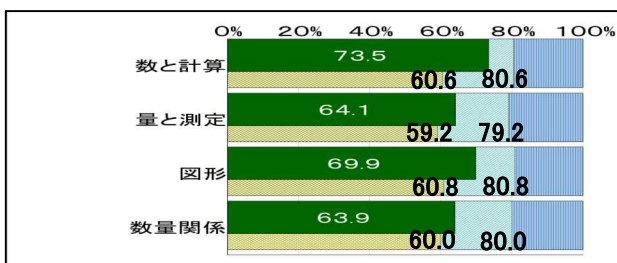
[グラフ6]小学4年生 内容・領域別正答率



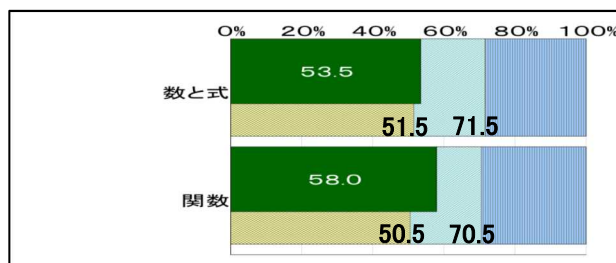
[グラフ7]小学5年生 内容・領域別正答率



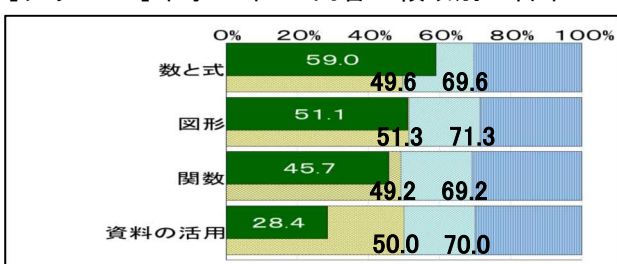
[グラフ8]小学6年生 内容・領域別正答率



[グラフ9]中学1年生 内容・領域別正答率



[グラフ10]中学2年生 内容・領域別正答率



(2) 成果と課題及び指導改善のポイント


小学校算数（小学4年生、小学5年生、小学6年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 整数や小数、分数の乗法の計算の基礎的な技能が身に付いている。
(小学4年生¹(1)、小学5年生¹(1)、小学6年生¹(2))
- ◇ 場面と図とを関連付けたり、場面と数直線とを関連付けたりして、二つの数量の関係を理解することができる。
(小学5年生³(1)、小学6年生³(1))
- ◇ 正方形の辺と辺の平行の関係、立方体の面と面の平行の関係を理解することができる。
(小学4年生⁷(2)、小学5年生⁷(2))
- ◆ 1 整数と小数の大小関係、分数の大小関係の理解に課題が見られる。
(小学4年生⁴(4)、小学5年生²(3))
- ◆ 2 小数の乗法や分数の除法の式の意味の理解に課題が見られる。
(小学5年生²(5)、小学6年生³(2))
- ◆ 3 グラフや表から必要な情報を読み取り、示された事柄が正しくない理由を説明することに課題が見られる。
(小学4年生¹¹、小学5年生¹²、小学6年生¹⁴)

指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック☑してみましょう。）

- ◆ 1 整数や小数の大小関係や分数の大小関係を理解することができるようにするためには、小数や分数の大きさや意味について考える場面を設定して指導することが大切です。
 - 整数や小数、分数を図や数直線などに表し、それぞれのおよその大きさを捉え、それを基に大小関係を判断するような活動を授業に位置付けていますか。
 - 表された小数や分数について、何が何個あるという見方（例えば、10.2は、10が1個と0.1が2個ある）や、何のいくつ分であるという見方（例えば、10.2は、0.1の102個分である）など、複数の見方を通して、児童がその大きさを理解できるように指導していますか。
- ◆ 2 乗法と除法の式の意味を理解することができるようにするためには、式の意味や求められた数値の意味を考える場面を設定することが大切です。
 - 児童に立式させるだけでなく、「なぜ、そのように立式できるのか」ということを、具体的な問題場面と関連付けながら図や式、言葉などを用いて児童が説明する活動を授業に位置付けていますか。
 - 立式に使った数値の意味や立式して求められた数値の意味について、児童が説明する活動を授業に位置付けていますか。
- ◆ 3 グラフや表から必要な情報を読み取り、示された事柄の正誤の理由を説明することができるようにするためには、問題の意味や他者の考えを解釈したり、誤った考えを正しい考えに修正したりする場面を設定することが大切です。
 - 問題解決に必要な情報だけを児童に提示するのではなく、児童が問題場面を解釈し、問題の解決に必要な情報を考えて選ぶような活動を授業に位置付けていますか。
 - 教師が示した考えや友達が発表した考えの意味を解釈し、図や式、言葉などを用いて説明する活動を授業に位置付けていますか。
 - 正しい考えだけでなく、誤った考えも意図的に示すなどして、児童に話し合う必然性をもたせ、示された考えの誤っている部分を見つけて誤っている理由を考えたり、誤った考えを正しい考えに修正したりするような活動を授業に位置付けていますか。

 ぜひ ご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターのプロジェクト研究では、学習状況調査から見える課題の解決に向けた授業づくりに取り組みました。「導入の段階の工夫」や「練り合いの段階の工夫」をした授業づくりについて提案しています。授業づくりに役立てください。


中学校数学（中学1年生、中学2年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 正の数と負の数の計算、同類項をまとめる計算、連立二元一次方程式を解く技能が身に付いている。
(中学1年生¹(1)(2)、中学2年生¹(1)(3)(3))
- ◇ 問題場面における考察の対象を明確に捉えることができている。
(中学1年生⁶(1)、中学2年生⁴(1)(5)(1))
- ◆ 1 比例や反比例の関係を式に表したり、一次関数の表から x と y の関係を式に表したりすることに課題が見られる。
(中学1年生⁹(2)(10)(2)、中学2年生⁹(3))
- ◆ 2 資料から範囲を求めたり、度数分布表から相対度数や最頻値を求めたりすることに課題が見られる。
(中学2年生¹¹(12)(1)(2))
- ◆ 3 文字を用いた不等式から数量の大小関係を読み取って説明すること、事柄が成り立つ理由を構想を立てて説明することに課題が見られる。
(中学1年生⁸、中学2年生⁵(2))

指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック☑してみてください。）

- ◆ 1 比例や反比例の関係を式に表したり、一次関数の表から x と y の関係を式に表したりすることができるようにするためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 比例、反比例、一次関数の式が、それぞれ $y=ax$ 、 $y=a/x$ 、 $y=ax+b$ で表されることを、生徒が確実に理解できるようにしていますか。
 - 比例や反比例、一次関数の特徴を、式だけでなく、表やグラフでも捉えることができるようにし、生徒が、表、式、グラフを相互に関連付けて考えるような活動を通して、理解を図るようにしていますか。
- ◆ 2 資料から範囲を求めることや度数分布表から相対度数や最頻値を求めることができるようにするためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 資料の活用における「範囲」の意味や表し方が、日常生活で用いる「範囲」という言葉の意味や表し方とは異なるということを、生徒が理解できるようにしていますか。
 - 総度数が異なる資料を比較する際に、階級の度数をそのまま比較することが適切ではないことを生徒が実感できるような場面を設定し、「相対度数」の意味や「相対度数」で表すことの必要性を、生徒が理解できるようにしていますか。
 - 度数分布表から最頻値を求める際に、「度数の最も多い階級の階級値を最頻値として用いる」ということを、生徒が理解できるようにしていますか。
 - 度数分布表から資料の傾向を捉える際に、相対度数を求めたり、ヒストグラムから資料の傾向を捉える際に、範囲を確認させ、代表値として平均値、中央値、最頻値を求めたりするような活動を授業に位置付けていますか。
- ◆ 3 文字を用いた不等式から数量の大小関係を読み取って説明したり、事柄が成り立つ理由を構想を立てて説明したりすることができるようにするためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 生徒が、式から読み取ったことや事柄が成り立つ理由などを記述したり、他者に説明したりする活動を設定し、適切な指導を行っていますか。
 - 生徒が記述したり説明したりした内容が適切であるかどうかを生徒同士が互いに吟味し合っ、て、よりよい表現にしていくような活動を授業に位置付けていますか。
 - 生徒が、事柄が成り立つ理由を説明する際に、根拠を明確にすることや、結論までを確実に表現することを指導していますか。

 ぜひ ご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターのプロジェクト研究では、学習状況調査から見える課題の解決に向けた授業づくりに取り組みました。数学的に説明し伝え合う活動を充実させた第1・2学年の「詳細授業展開案」と「ワークシート」を提案しています。内容・領域「関数」「図形」の授業づくりに役立ててください。

(3) 各学年の設問ごとの正答率

[表1] 小学校4年生 算数 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,412	61.9	1.8	81.4	61.4	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	数と計算	10	63.0	1.5	81.5	61.5	
	量と測定	7	67.0	1.5	80.0	60.0	
	図形	4	59.8	1.9	85.0	65.0	▼
	数量関係	5	47.0	3.2	78.0	58.0	▼
評価の観点	①考え方	5	38.7	4.3	73.0	53.0	▼
	②技能	8	78.6	0.8	83.8	63.8	
	③知識・理解	12	60.5	1.5	83.3	63.3	▼
問題形式	選択式	6	61.3	0.6	84.2	64.2	▼
	短答式	17	66.7	1.8	82.1	62.1	
	記述式	2	22.9	5.6	67.5	47.5	▼
活用	「活用」に関する問題	3	29.1	5.1	70.0	50.0	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	①考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				十分達成	おおむね達成	
1	(1)	2位数×2位数の乗法の計算をすることができる	○					○			86.7	0.3	85	65	◎	
1	(2)	除数が2位数で、被除数が3位数である除法の計算をすることができる	○					○			78.8	2.1	85	65		
1	(3)	1/10の位までの小数の加法の計算をすることができる	○					○			86.4	0.4	85	65	◎	
1	(4)	()を用いた式の計算をすることができる			○			○			93.8	0.5	85	65	◎	
2	(1)	□を用いて数量の関係を式に表すことができる			○			○			48.2	0.4	80	60	▼	
2	(2)	正しい式にするために()を用いた正しい式を考えることができる			○			○			34.4	4.8	80	60	▼	
2	(3)	分配法則について理解している			○			○			38.5	2.2	80	60	▼	
3	(1)	分度器を用いて180°より小さい角の大きさを求めることができる	○					○			86.6	0.3	85	65	◎	
3	(2)	180°より大きい角の大きさを求めることができる	○					○			83.9	0.8	85	65		
4	(1)	千億までの位の数を、数直線から読み取ることができる	○					○			64.5	1.3	80	60		
4	(2)	示された位までの概数にする際、1つ下の位の数を四捨五入して処理する方法について理解している	○					○			80.8	0.8	80	60	◎	
4	(3)	以上、未満の意味について理解している	○					○			59.2	3.4	85	65	▼	
4	(4)	整数や小数の大小を理解している	○					○			62.5	0.5	85	65	▼	
5		除数が1位数で被除数が3位数の場合の、除法の筆算の仕方を理解している	○					○			25.9	1.5	80	60	▼	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県 正答率	県 無解答率	期待 正答率		到達 状況
		数 と計 算	量 と測 定	図 形	数 量 関 係	① 考 え 方	② 技 能	③ 知 識 ・ 理 解	選 択 式	短 答 式	記 述 式				十 分 達 成	お お む ね 達 成	
6	(1)	kmとm, mとcmの関係を理解している	○				○		○				82.0	0.6	85	65	
6	(2)	重さの感覚を身に付けている	○				○		○				77.5	0.5	85	65	
7	(1)	円の直径について理解している		○			○			○			54.1	4.5	85	65	▼
7	(2)	正方形の辺と辺の平行の関係を理解している		○			○			○			87.3	1.5	85	65	◎
7	(3) 台形	台形について理解している		○			○			○			25.8	0.8	85	65	▼
7	(3) 平行四辺形	平行四辺形について理解している		○			○			○			72.0	0.8	85	65	
7	(4)	長方形を組み合わせた図形の面積の求め方を考えることができる		○			○			○			72.0	1.4	75	55	
8		示された情報を基に必要な量と残りの量の大きさを判断し、その理由を説明することができる。	○	○			○			○	○		25.6	3.1	70	50	▼
9		除数と被除数を同じ数で割っても商は変わらないことを理解している	○				○			○			60.1	1.2	80	60	
10		360°をつくるための、三角定規の必要な枚数の求め方を考えることができる		○			○			○	○		41.5	4.1	75	55	▼
11		示された説明が正しくない理由を、棒グラフから必要な情報を読み取って説明することができる			○		○			○	○		20.2	8.0	65	45	▼

[表2] 小学校5年生 算数 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,274	70.6	1.5	80.6	60.6	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	数と計算	8	72.6	0.6	83.8	63.8	
	量と測定	9	70.3	2.8	76.7	56.7	
	図形	5	61.9	0.7	83.0	63.0	▼
	数量関係	5	66.9	4.0	77.0	57.0	
評価の観点	①考え方	6	62.6	4.3	72.5	52.5	
	②技能	9	81.7	0.5	83.9	63.9	
	③知識・理解	11	65.9	0.8	82.3	62.3	
問題形式	選択式	10	65.0	0.6	81.0	61.0	
	短答式	14	78.2	1.0	82.1	62.1	
	記述式	2	45.0	9.5	67.5	47.5	▼
活用	「活用」に関する問題	4	54.2	6.2	70.0	50.0	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	①考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				十分達成	おおむね達成	
1	(1) 被乗数、乗数が共に小数の乗法の計算をすることができる	○					○		○		86.0	0.0	85	65	◎	
1	(2) 被除数、除数が共に小数の除法の計算をすることができる	○					○		○		86.6	0.3	85	65	◎	
1	(3) 被除数が整数、除数が小数の除法の計算をすることができる	○					○		○		77.5	0.4	85	65		
1	(4) 加法と乗法が混合した計算をすることができる			○			○		○		70.7	0.2	85	65		
2	(1) 数直線から1/100の位までの小数を読み取ることができる	○					○		○		78.8	0.4	85	65		
2	(2) 公約数、最大公約数の意味と用語を理解している	○					○		○		73.1	1.2	85	65		
2	(3) 分数の大小関係を理解している	○					○		○		58.1	1.8	80	60	▼	
2	(4) 小数の相対的な大きさを理解している	○					○		○		66.5	0.3	85	65		
2	(5) 乗数が小数、被乗数が整数の乗法の式の意味について理解している	○					○		○		54.3	0.2	80	60	▼	
2	(6) 二つの数量の関係を□、△を用いて表すことができる			○			○		○		86.4	0.3	80	60	◎	
3	(1) 単位量当たりの大きさを調べる場面と図とを関連付けて、二つの数量の関係を理解している	○					○		○		89.9	0.3	80	60	◎	
3	(2) 単位量当たりの大きさの求め方を理解している	○					○		○		73.2	1.3	80	60		
4	示された情報を基に、条件に合った時間を考えることができる	○					○		○	○	67.0	1.7	75	55		
5	(1) 直方体の展開図に必要な面を理解している			○			○		○		79.1	0.3	85	65		

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	①考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				記述式	十分達成	
5	(2)	三角定規を組み合わせてできる角の大きさを考えることができる	○						○			80.7	0.7	80	60	◎
5	(3)	立方体の体積を求めることができる	○						○			73.7	0.5	85	65	
6		立体の体積を求める式と図とを関連付けて考えることができる	○						○			77.9	0.4	75	55	◎
7	(1)	合同な図形について理解している		○				○	○			58.3	0.5	80	60	▼
7	(2)	立方体の面と面の平行の関係を理解している		○				○	○			92.3	0.7	85	65	◎
7	(3)	見取り図から読み取った面の形や辺の大きさについて理解している		○				○	○			61.5	0.6	85	65	▼
8		ペットボトルのキャップをクラス全体で何個集めたかを求める式を解釈し、その意味を説明することができる	○					○		○		68.1	4.7	70	50	
9		合同な三角形をかくために必要な条件を理解している		○				○	○			18.5	1.3	80	60	▼
10	(1)	二つの観点から整理して、表を用いて表すことができる			○			○	○			95.6	1.1	85	65	◎
10	(2)	測定値に0を含む場合において、測定値の平均を求めることができる	○					○	○			80.0	1.4	80	60	◎
11		示された情報を基に、勝ち、あいこ、負けの回数を考え、示された公式に数値を当てはめて勝ち点を求めることができる			○			○		○		59.9	4.0	70	50	
12		グラフから必要な情報を読み取り、一人当たりのごみの量を求め、それを根拠に、示された事柄が正しくない理由を説明することができる	○	○				○		○		21.9	14.3	65	45	▼

[表3] 小学校6年生 算数 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,094	68.7	1.2	80.6	60.6	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	数と計算	8	73.5	0.9	80.6	60.6	
	量と測定	6	64.1	1.9	79.2	59.2	
	図形	6	69.9	0.3	80.8	60.8	
	数量関係	8	63.9	2.6	80.0	60.0	
評価の観点	①考え方	6	63.4	3.0	73.3	53.3	
	②技能	8	72.1	0.7	83.8	63.8	
	③知識・理解	13	69.0	0.7	81.9	61.9	
問題形式	選択式	12	68.6	0.4	80.4	60.4	
	短答式	13	73.9	0.8	82.7	62.7	
	記述式	2	35.4	8.3	67.5	47.5	▼
活用	「活用」に関する問題	4	55.9	4.4	70.0	50.0	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	①考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				十分達成	おおむね達成	
1	(1) 異分母分数の加法の計算をすることができる	○					○		○		78.1	0.3	85	65		
1	(2) 被乗数、乗数が共に真分数の乗法の計算をすることができる	○					○		○		89.7	0.3	85	65	◎	
1	(3) 小数及び分数を含んだ乗法の計算をすることができる	○					○		○		81.3	0.9	85	65		
1	(4) 加法と乗法が混合した分数の計算をすることができる			○			○		○		32.8	0.8	85	65	▼	
2	分数の除法の計算の意味を理解している	○					○		○		67.7	3.3	80	60		
3	(1) 場面と数直線とを関連付けて、二つの数量の関係を理解している	○					○		○		81.4	0.1	80	60	◎	
3	(2) 分数の除法の意味について理解している	○					○		○		59.0	0.3	80	60	▼	
4	(1) 時速を基に、分速を求めることができる	○					○		○		67.1	1.0	85	65		
4	(2) 異種の二つの量の割合として捉えられる数量について、その比べ方を理解している	○					○		○		38.8	0.2	80	60	▼	
4	(3) xやyを用いた式の意味について理解している			○			○		○		90.8	0.2	85	65	◎	
4	(4) 乗数や除数が分数である計算において、乗数や除数と計算の答えの大きさととの関係について理解している	○					○		○		54.6	1.6	80	60	▼	
5	身の回りにある形について、概形を捉え、およその面積を求める式を考えることができる	○					○		○		89.8	0.1	80	60	◎	
6	(1) 円周の求め方を理解している			○			○		○		40.1	0.2	85	65	▼	
6	(2) 三角柱の体積を求めることができる	○					○		○		71.1	0.6	80	60		

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の 内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県 正答率	県 無解答率	期待 正答率		到達 状況
		数 と計 算	量 と測 定	図 形	数 量 関 係	① 考 え 方	② 技 能	③ 知 識 ・ 理 解	選 択 式	短 答 式				記 述 式	十 分 達 成	
7	模様が描かれた立方体の見取図を基に、展開図を考えることができる		○			○			○		○	77.0	0.1	75	55	◎
8	(1) 点対称な図形における対応する点の位置関係を理解している		○				○		○			76.1	0.4	85	65	
8	(2) 線対称な図形における対称の軸について理解している		○				○		○			82.4	0.2	80	60	◎
8	(3) 五角柱の特徴を理解している		○				○		○			76.8	0.3	80	60	
9	(1) 等しい比について理解している			○			○		○			87.8	0.4	85	65	◎
9	(2) 基準となる大きさを1として、それに対する割合を小数で表し、基準量と比較量の関係を理解している			○			○		○			51.4	1.0	80	60	▼
10	(1) 元の図形と拡大図の関係を基に、拡大図の面積を考えることができる			○		○			○			66.9	0.5	80	60	
10	(2) 平行四辺形の面積を求めることができる		○				○		○			69.1	1.0	80	60	
11	示された情報を基に、出発から到着までにかかる時間と飛ぶ道のりの関係を表す直線がグラフに入りきらない理由を説明することができる		○	○		○				○	○	48.9	8.4	70	50	▼
12	乗法や除法の意味を解釈することができる	○				○			○		○	76.1	0.8	70	50	◎
13	(1) 比例のグラフから、釘の本数を読み取ることができる			○			○		○			87.6	1.0	85	65	◎
13	(2) 反比例の意味を理解している			○			○		○			90.1	0.9	85	65	◎
14	図と表に示された情報から、それぞれの年の農業で働く人数を求め、それを根拠に示された事柄が正しくない理由を説明することができる			○		○				○	○	21.8	8.2	65	45	▼

[表4] 中学校1年生 数学 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,016	55.1	6.7	71.1	51.1	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	数と式	20	53.5	6.6	71.5	51.5	
	関数	11	58.0	6.7	70.5	50.5	
評価の観点	①見方や考え方	5	33.3	17.6	60.0	40.0	▼
	②技能	16	57.1	6.4	72.8	52.8	
	③知識・理解	10	62.9	1.7	74.0	54.0	
問題形式	選択式	8	60.3	1.7	73.1	53.1	
	短答式	19	56.9	6.2	72.9	52.9	
	記述式	4	36.2	18.7	58.8	38.8	▼
活用	「活用」に関する問題	5	33.3	17.6	60.0	40.0	▼

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等		評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		数と式	関数	①見方や考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				十分達成	おおむね達成	
1	(1) 正の数と負の数の加法の計算をすることができる	○			○		○			93.5	0.2	75	55	◎
1	(2) 四則を含む正の数と負の数の計算をすることができる	○			○		○			78.3	0.9	75	55	◎
1	(3) 指数を含む正の数と負の数の計算をすることができる	○			○		○			61.3	0.8	75	55	
2	(1) 一次式の加法と減法の計算をすることができる	○			○		○			63.6	3.6	75	55	
2	(2) 一次式を数でわる計算をすることができる	○			○		○			47.1	7.7	75	55	▼
2	(3) 分配法則を用いた文字式の計算をすることができる	○			○		○			56.6	5.5	70	50	
3	(1) 自然数の意味を理解している	○			○		○			53.6	0.5	75	55	▼
3	(2) 絶対値について理解している	○			○		○			37.0	0.8	75	55	▼
3	(3) 実生活の場面において、ある数量が正の数と負の数で表されていることを理解している	○			○		○			88.3	2.3	75	55	◎
3	(4) 数の集合と四則計算の可能性について理解している	○			○		○			75.8	1.0	70	50	◎
4	(1) 数量の関係を文字式に表すことができる	○			○		○			18.6	12.4	70	50	▼
4	(2) 指数を含む文字式に数を代入して式の値を求めることができる	○			○		○			35.3	11.0	75	55	▼
4	(3) 数量の大小関係を不等式に表すことができる	○			○		○			62.5	1.5	70	50	
5	(1) 一元一次方程式の解の意味を理解している	○			○		○			39.3	1.7	75	55	▼

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		数と式	関数	図形	方程式・関数	①見方や考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				記述式	十分達成	
5	(2)	分数を含む一元一次方程式を解くことができる	○					○				45.3	14.2	70	50	▼
5	(3)	簡単な比例式を解くことができる	○					○				51.1	12.4	75	55	▼
6	(1)	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	○					○				73.5	2.0	70	50	◎
6	(2)	事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明することができる	○					○		○		45.5	21.2	60	40	
7		与えられた情報を的確に読み取り、正しい方程式を考えることができる	○					○		○		21.6	13.1	65	45	▼
8		文字を用いた不等式から、数量の大小関係を読み取り、説明することができる	○							○	○	22.6	20.0	60	40	▼
9	(1)	変域の表し方を理解している	○					○				73.1	2.0	75	55	
9	(2)	比例の関係を式に表すことができる	○					○				42.4	7.3	75	55	▼
9	(3)	点の座標の表し方を理解している	○					○				83.7	1.6	75	55	◎
9	(4)	与えられた比例の式について、そのグラフ上の点のx座標を基に、y座標を求めることができる	○					○				50.9	9.5	75	55	▼
9	(5)	比例の式とグラフの関係について理解している	○					○				60.2	1.9	75	55	
10	(1)	具体的な事象における二つの数量の関係が、反比例の関係になることを理解している	○					○				45.4	2.6	70	50	▼
10	(2)	表から変数x、yの間の関係を見だし、反比例の関係を式に表すことができる	○					○				44.0	7.2	75	55	▼
10	(3)	反比例の式とグラフの関係について理解している	○					○				72.4	2.4	75	55	
11		前提となる条件が不足している場合に、加えるべき条件を判断し、それが適している理由を説明することができる	○					○		○		40.1	14.9	60	40	
12	(1)	与えられたグラフから必要な情報を読み取ることができる	○					○				89.2	5.8	65	45	◎
12	(2)	グラフや式などを基に、問題解決の方法を数学的に説明することができる	○					○		○		36.7	18.6	55	35	

[表5] 中学校2年生 数学 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,066	50.0	10.5	70.0	50.0	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	数と式	14	59.0	9.6	69.6	49.6	
	図形	8	51.1	7.1	71.3	51.3	▼
	関数	6	45.7	12.2	69.2	49.2	▼
	資料の活用	5	28.4	16.1	70.0	50.0	▼
評価の観点	①見方や考え方	7	44.6	21.4	60.0	40.0	
	②技能	16	55.1	9.2	72.5	52.5	
	③知識・理解	10	45.7	4.9	73.0	53.0	▼
問題形式	選択式	13	52.8	2.5	70.8	50.8	
	短答式	15	49.5	11.3	73.0	53.0	▼
	記述式	5	44.3	28.7	59.0	39.0	
活用	「活用」に関する問題	5	44.3	28.7	59.0	39.0	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		数と式	図形	関数	資料の活用	①見方や考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				十分達成	おおむね達成	
1	(1) 同類項をまとめることができる	○				○			○			88.1	1.6	75	55	◎
1	(2) 分数を含む整式の加法と減法の計算をすることができる	○				○			○			40.1	7.6	70	50	▼
1	(3) 指数を含む式の計算をすることができる	○				○			○			58.1	2.9	75	55	
1	(4) 分数を含む単項式の除法の計算をすることができる	○				○			○			35.3	6.9	70	50	▼
2	(1) 文字式に数を代入して式の値を求めることができる	○				○			○			42.8	12.2	70	50	▼
2	(2) 等式を目的に応じて変形することができる	○				○			○			60.1	10.5	75	55	
3	(1) 二元一次方程式とその解の意味を理解している	○					○		○			70.3	2.7	75	55	
3	(2) 具体的な事象の中の数量の関係を捉え、連立二元一次方程式をつくることのできる	○					○		○			64.3	1.8	70	50	
3	(3) 簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	○					○		○			77.2	8.1	75	55	◎
4	(1) 問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	○					○		○			73.0	1.8	70	50	◎
4	(2) 数量の関係や法則などを、文字式でどのように表すことができるのかを考えることができる	○					○		○			50.1	2.6	60	40	
5	(1) 問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	○					○		○			74.9	12.3	70	50	◎
5	(2) 事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明することができる	○					○		○	○		30.5	37.7	60	40	▼
5	(3) 発展的に考え、予想した事柄を説明することができる	○					○		○	○		61.9	26.2	60	40	◎

設問別集計結果

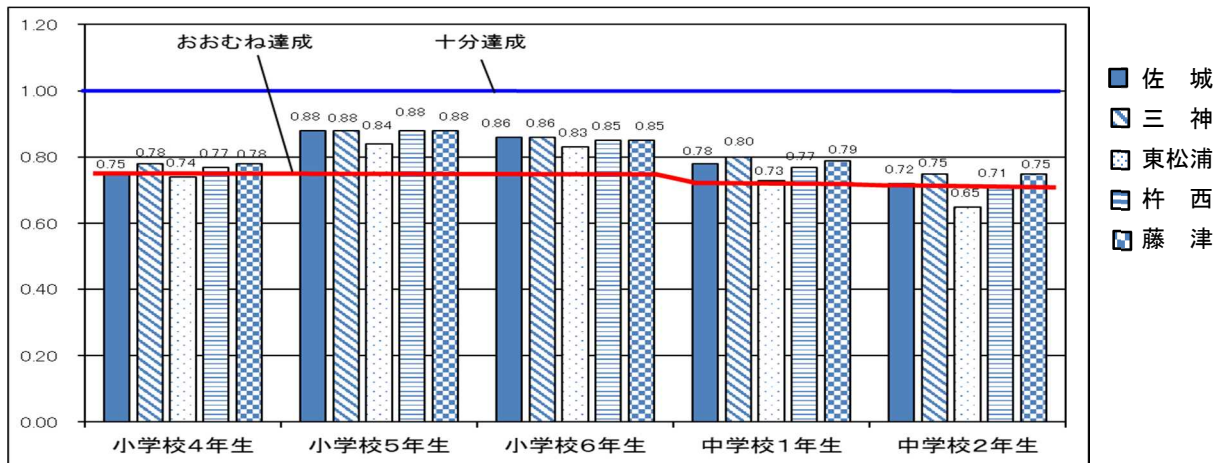
問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		数と式	図形	関数	資料の活用	①見方や考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				十分達成	おおむね達成	
6	(1)		○				○		○			85.3	1.0	75	55	◎
6	(2)		○				○		○			29.5	1.4	75	55	▼
6	(3)		○				○		○			24.5	25.7	70	50	▼
6	(4)		○				○		○			59.5	2.2	75	55	
7	(1)		○				○		○			81.1	2.3	75	55	◎
7	(2)		○				○		○			63.6	1.9	70	50	
7	(3)		○				○		○			32.5	2.9	70	50	▼
8			○				○			○	○	31.8	20.2	60	40	▼
9	(1)		○				○		○			40.5	3.1	70	50	▼
9	(2)		○				○		○			62.2	15.4	75	55	
9	(3)		○				○		○			27.4	23.5	70	50	▼
9	(4)		○				○		○			52.3	3.0	75	55	▼
10	(1)		○				○		○			40.6	3.5	65	45	▼
10	(2)		○				○			○	○	51.1	25.0	60	40	
11			○				○		○			20.9	11.8	75	55	▼
12	(1)		○				○		○			38.1	15.2	75	55	▼
12	(2)		○				○		○			12.2	13.9	75	55	▼
13			○				○		○			25.1	5.0	70	50	▼
14			○				○			○	○	45.9	34.4	55	35	

(4) 地域別の状況

- 県内5地域における学年別平均正答率の「十分達成」に対する状況は、小学校5年生と小学校6年生、中学校1年生で5地域とも「おおむね達成」の基準に達している。[グラフ11]
- 県内5地域における学年別平均正答率の対県比は[表6]のとおりで、中学校2年生で地域差が最も大きい。また、4月調査と比べて小学校5年生と小学校6年生、中学校2年生で地域差が縮小し、中学校1年生で地域差が拡大している。

[グラフ11] 県内5地域における学年別平均正答率の「十分達成」に対する状況

※ 各学年における「十分達成」の到達基準を1.00として算出



[表6] 県内5地域における学年別平均正答率の対県比

学年・教科	実施年度	対県比(地域平均正答率/県平均正答率)					地域差
		佐城	三神	東松浦	杵西	藤津	
小学校4年生	H29[12月]	0.99	1.02	0.97	1.01	1.03	0.06
	H29[4月]	-	-	-	-	-	-
小学校5年生	H29[12月]	1.01	1.01	0.96	1.01	1.00	縮 0.05
	H29[4月]	1.01	0.99	0.97	1.01	1.04	0.07
小学校6年生	H29[12月]	1.01	1.01	0.97	1.00	1.00	縮 0.04
	H29[4月]	1.02	1.02	0.97	0.98	0.99	0.05
中学校1年生	H29[12月]	1.01	1.03	0.95	0.99	1.03	拡 0.08
	H29[4月]	1.01	1.02	0.97	1.00	0.97	0.05
中学校2年生	H29[12月]	1.01	1.05	0.91	0.99	1.05	▲ 縮 0.14
	H29[4月]	1.06	1.00	0.89	0.98	1.03	▲ 0.17

※ 「対県比」は、県平均正答率を1.00として算出

※ 「地域差」は、対県比の最大値と最小値の差を表す

※ 「▲」は、地域差が0.10以上の教科を示す

※ 「縮」は、平成29年度[4月調査]より地域差が縮小した教科を、「拡」は拡大した教科を示す

※ 地域及び市町名

地域名	市町名
佐城	佐賀市、多久市、小城市
三神	鳥栖市、神埼市、吉野ヶ里町、基山町、みやき町、上峰町
東松浦	唐津市、玄海町
杵西	武雄市、伊万里市、白石町、大町町、江北町、有田町
藤津	鹿島市、嬉野市、太良町

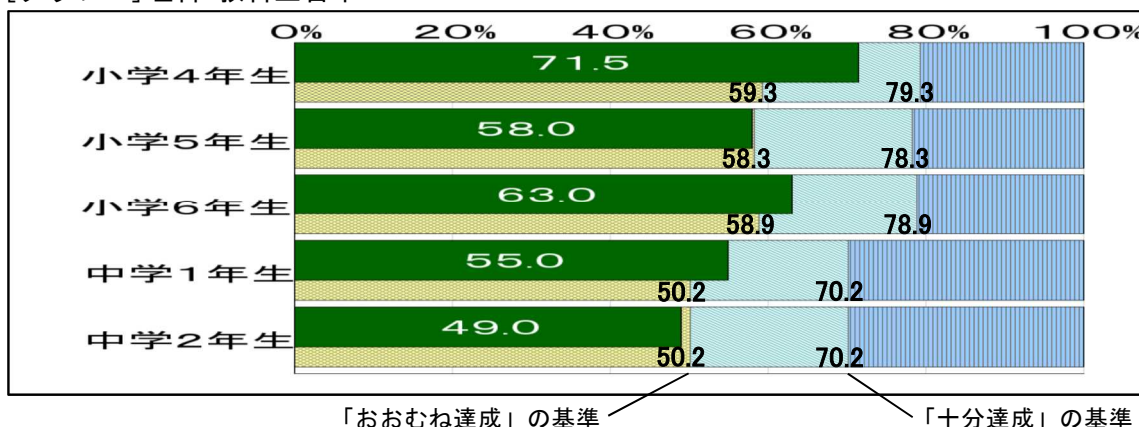
Ⅲ 教科ごとの調査結果とその分析

理 科

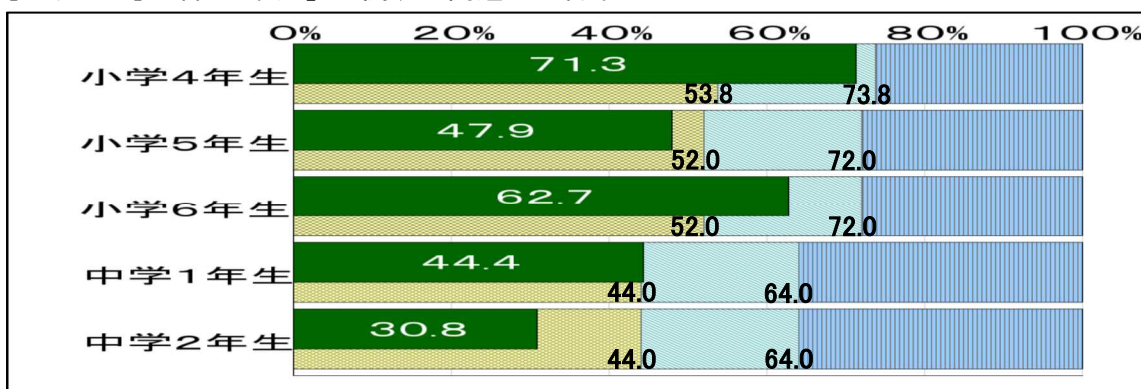
(1) 結果の概要

- 教科正答率は、小学5年生、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。【グラフ1】
- 「活用」に関する問題については、小学5年生、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。【グラフ2】
- 観点別に見ると、小学4年生は、全ての観点で「おおむね達成」の基準を上回っている。「科学的な思考・表現」については、中学1年生、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。「観察・実験の技能」については、小学5年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。「自然事象についての知識・理解」については、小学5年生と小学6年生、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。【グラフ3～5】
- 内容・領域別に見ると、小学校では、「生命・地球」については、全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。「物質・エネルギー」については、小学5年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。中学校では、「生物的領域」については、全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。「物理的領域」「地学的領域」「化学的領域」については、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。【グラフ6～10】

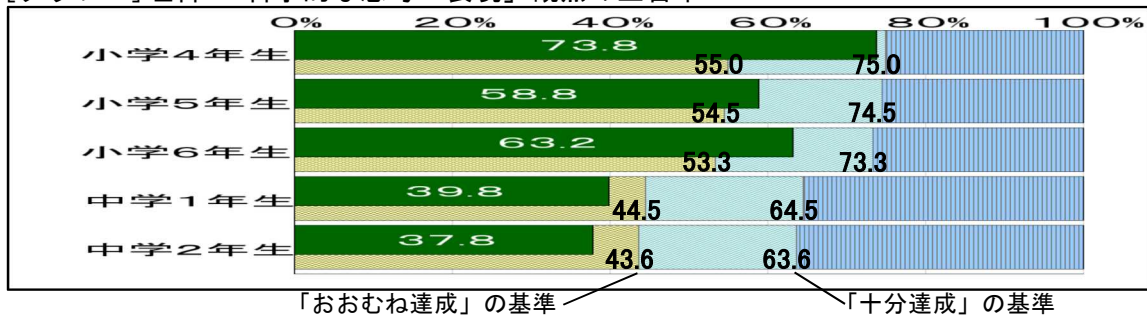
[グラフ1]理科 教科正答率



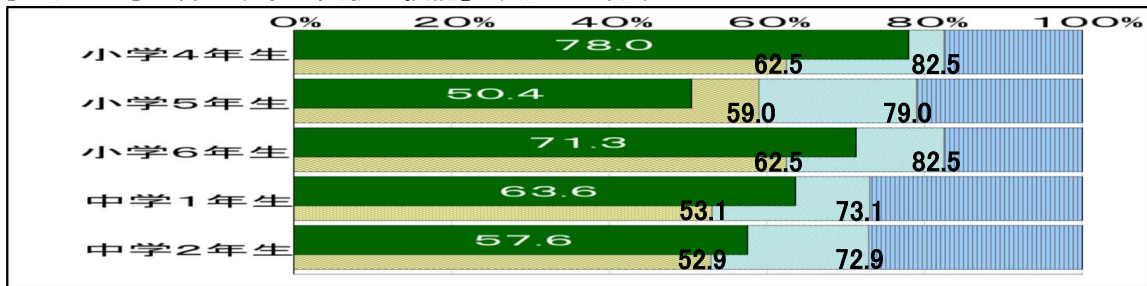
[グラフ2]理科 「活用」に関する問題の正答率



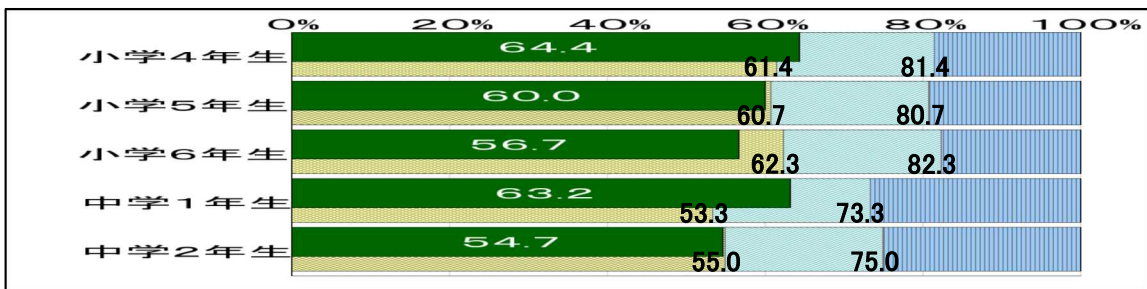
[グラフ3]理科 「科学的な思考・表現」観点の正答率



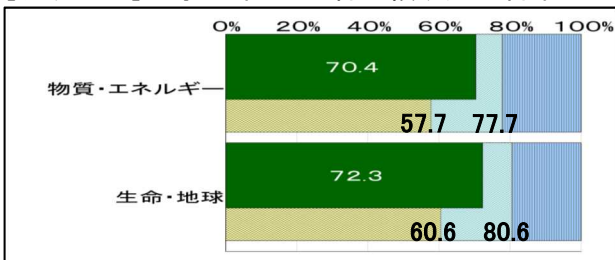
[グラフ4]理科 「観察・実験の技能」観点の正答率



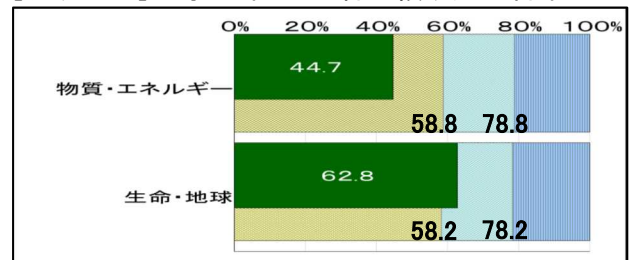
[グラフ5]理科 「自然事象についての知識・理解」観点の正答率



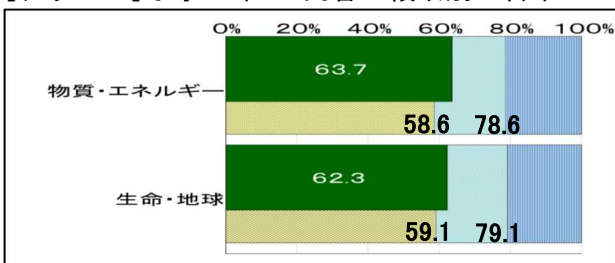
[グラフ6]小学4年生 内容・領域別正答率



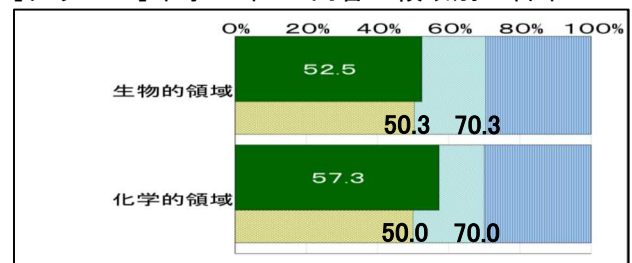
[グラフ7]小学5年生 内容・領域別正答率



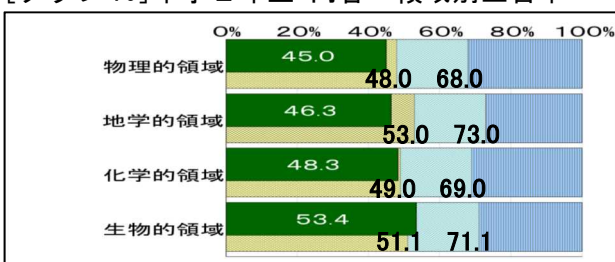
[グラフ8]小学6年生 内容・領域別正答率



[グラフ9]中学1年生 内容・領域別正答率



[グラフ10]中学2年生 内容・領域別正答率



(2) 成果と課題及び指導改善のポイント


小学校理科（小学4年生、小学5年生、小学6年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 「物質・エネルギー」については、自然事象の原因と結果を関係付けることができている。
(小学4年生¹(2)、小学6年生²(3)(4)(3))
- ◇ 「生命・地球」については、複数のものを比較し、それらの相違点を捉えることができている。
(小学5年生⁸(1)(9)(1)、小学6年生⁸(4))
- ◇ 天体や気象については、月や太陽を観察する方法や調べ活動の仕方を身に付けている。
(小学4年生⁶(1)(9)(2)、小学5年生¹²(1)、小学6年生⁸(1))
- ◆ 1 空気や電流など、原因が目に見えない自然事象について、学習したことを活用して解釈することに課題が見られる。
(小学4年生¹(4)、小学5年生¹(3)(11)、小学6年生⁴(1)(10)(2))
- ◆ 2 ものの性質や実験器具の名前のような基本的な知識の習得については、課題が見られる。
(小学4年生⁴(1)(7)(2)(10)(2)、小学5年生³(3)(10)(2)、小学6年生⁴(2)(5)(2)(2))
- ◆ 3 薬品を使ったり加熱したりする実験について、安全に留意して行うことに課題が見られる。
(小学5年生³(1)、小学6年生⁶(1))

指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック☑してみましょう。）

- ◆ 1 空気や電流など、原因が目に見えない自然事象について、学習したことを活用して解釈する力を育成するためには、児童が自然事象をイメージできるような指導を行うことが大切です。
 - 児童が実験したり身近な自然事象を観察したりする際に、空気や電流など目に見えないものを絵や図に表すなどして、事象の様子を表現する活動を設定していますか。
 - 絵や図に表した事象の様子を友達に言葉で説明するなどして、表した絵や図の妥当性を児童が考える活動を設定していますか。
- ◆ 2 名称や性質のような基本的な知識の習得を図るためには、学習した知識を活用する必然性がある活動の設定と、問題解決を通して理解することができるような指導を行うことが大切です。
 - 既に学習したことを使って考えさせる場面を設定し、その名前や使い方、性質まで合わせて表現させるようにしていますか。(例：「どのような実験をして、どうなったら、でんぷんがあると言えますか?」)
 - 児童が実験結果を考察する際に、自分の言葉で、「どのような実験を行ったか」「どのような結果が得られたか」「自分の仮説に対して、結果からどのようなことが言えるのか」といったようなことを整理して表現するなどして、自分が理解したこととその根拠となることを明らかにする活動を設定していますか。
- ◆ 3 安全に留意して観察や実験を行う力を身に付けるためには、児童が危険性について認識できるようにした上で、一人一人が実際に器具を操作できるような環境を整えることが大切です。
 - 「誤った操作をしたらどのような危険があるのか」ということまでを児童が理解できるようにして、児童が安全に留意して観察や実験を行おうとする意識を高めるような指導を行っていますか。
 - 可能な限り全ての児童が実際に器具を操作する機会を設けることができるように、器具の準備や授業の計画などを行っていますか。

 ぜひ ご活用ください! → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターの理科力向上サポート事業では、学習状況調査から見える課題の解決に向けた授業づくりに取り組んでいます。事象提示から結論に至るまでの学習過程を理科の学習モデルとして提案しています。授業づくりに役立ててください。

中学校理科（中学1年生、中学2年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 状態変化や水の電気分解の実験を安全に行うための技能が身に付いている。
(中学1年生 **13**(1)、中学2年生 **6**(1))
- ◇ 植物を観察する技能について、同一学年の経年比較をすると、平成28年度[12月調査]から改善が見られる。
(「十分達成」の基準を1とした場合…… H28:0.50 → H29:0.91) ※1 (中学1年生 **1**(1) **2**(1))
- ◆1 自然の事物・現象についての基礎的な知識を身に付けることについて課題が見られる。
(中学1年生 **14**(2)、中学2年生 **5**(1) **3**(9) **1**(10) **1**(3) **11**(2))
- ◆2 日常生活や社会の特定の場面において、身に付けた知識・技能を活用することについて、平成28年度[12月調査]に引き続き、課題が見られる。
(中学1年生 **5**、中学2年生 **2** **3**(2) **5**(2) **9**(2))
- ◆3 実験結果を基に推定することに課題が見られる。
(中学1年生 **3** **2** **8**(2) **13**(4)、中学2年生 **7**(2)(4))

※1 平成28年度佐賀県小・中学校学習状況調査[12月調査]Web報告書 参照

指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック☑してみましょう。）

- ◆1 自然の事物・現象についての基礎的な知識を身に付けさせるためには、次のような指導を行うことが大切です。


- 自然の事物・現象についての概念や原理・法則を学習する際は、観察、実験などを通して、生徒が自ら概念や原理・法則を見いだせるようにした上で理解できるようにしていますか。
- 概念や原理・法則について説明する活動を通して、知識同士のつながりを意識しながら理解できるようにしていますか。

- ◆2 日常生活や社会の特定の場面において、身に付けた知識・技能を活用する力を育成するためには、次のような指導を行うことが大切です。

- 授業の導入の段階で、教師の演示実験などを基に生徒と共に学習問題を導き出すなどして、生徒が、目の前で起こる事象と理科の学習を結び付けることができるようにしていますか。
- 授業で学習した内容を使って日常生活に見られる事象を説明させる機会を設けていますか。
- 例えば、製鉄や石油の精製など、理科で学習したことが様々な形で応用されて、自分たちの生活を豊かにしていることに気付かせ、理科の有用性を実感できるようにしていますか。

- ◆3 実験結果を基に推定する力を育成するためには、次のような指導を行うことが大切です。

- 自分の設定した仮説や計画した観察、実験の方法が正しければ、どのような結果が得られるか見通しをもたせた上で観察、実験に取り組みせ、得られた結果を基に考察に取り組みせるようにしていますか。
- 生徒が結果の考察を自分の言葉で書き、書いた考察を他の生徒に説明する活動を位置付けていますか。その際、個人で書いた考察を互いに吟味し合い、よりよいものにするように指導していますか。

 ぜび ご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターの理科力向上サポート事業では、学習状況調査から見える課題の解決に向けた授業づくりに取り組んでいます。生徒が主体的に観察・実験に取り組むことや、観察・実験の計画を立てること、結果と考察を書き分けることなどを意図した授業展開を紹介しています。授業づくりに役立ててください。

(3) 各学年の設問ごとの正答率

[表1] 小学校4年生 理科 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,420	71.5	1.6	79.3	59.3	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	物質・エネルギー	13	70.4	0.8	77.7	57.7	
	生命・地球	17	72.3	2.3	80.6	60.6	
評価の観点	①思考・表現	11	73.8	1.3	75.0	55.0	
	②技能	8	78.0	1.3	82.5	62.5	
	③知識・理解	11	64.4	2.2	81.4	61.4	
問題形式	選択式	19	73.1	1.2	79.7	59.7	
	短答式	6	70.2	2.6	82.5	62.5	
	記述式	5	67.1	2.3	74.0	54.0	
活用	「活用」に関する問題	4	71.3	1.7	73.8	53.8	

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等		評価の観点			問題形式	活用	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		物質・エネルギー	生命・地球	①思考・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式			記述式	「活用」に関する問題	
1	(1) アルコールランプを安全に使うことができる	○				○			63.1	0.2	80	60	
1	(2) 金属を温めるとと体積が大きくなることを関係付けて説明することができる	○				○		○	75.4	1.3	75	55	◎
1	(3) 水温が上がると水の体積が増えることを関係付けて考えることができる	○				○			74.7	0.2	75	55	
1	(4) 空気の温度と体積の関係を基に、ソフトバレーボールがしぼむ理由を説明することができる	○				○		○	48.8	1.9	70	50	▼
2	(1) 回路を流れる電気のことを電流ということを理解している	○					○		72.1	4.2	80	60	
2	(2) プロペラの回る向きと電流の向きとを関係付けて、検流計(簡易検流計)の針の向きを考えることができる	○				○			82.2	0.4	75	55	◎
2	(3) モーターを速く回すために、乾電池2個を使った直列つなぎの回路のつなぎ方を考えることができる	○				○		○	62.2	1.1	70	50	
3	閉じ込めた空気を押し縮めると体積は小さくなるが、閉じ込めた水を押し縮めても体積は変わらないことを理解している	○					○		72.0	0.4	80	60	
4	(1) 鉄が磁石に引き付けられることを理解している	○					○		49.4	0.2	80	60	▼
4	(2) 磁石の異極は引き合い同極は退け合う性質を基に、磁石の極を考えることができる	○				○		○	85.8	0.3	75	55	◎
5	(1) 日光が集まったところの明るさが増すための、虫眼鏡の動かし方を身に付けている	○				○			56.0	0.2	85	65	▼
5	(2) 虫眼鏡を適切に使うことができる	○				○			80.7	0.3	80	60	◎
5	(3) 温度計が示す温度を読み取ることができる	○					○		93.4	0.2	85	65	◎
6	(1) 月の観察の仕方を身に付けている	○				○			84.8	0.2	80	60	◎

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		物質・エネルギー	生命・地球			①思考・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				記述式	十分達成	
6	(2)	○				○			○			73.5	0.7	80	60	
7	(1)	○					○		○			70.0	0.4	80	60	
7	(2)	○					○			○		49.6	1.9	80	60	▼
7	(3)	○				○			○	○		74.5	0.7	75	55	
8	(1)	○				○				○		72.7	3.3	80	60	
8	(2)	○				○			○			86.0	0.7	75	55	◎
8	(3)	○					○			○		83.6	1.1	85	65	
8	(4)	○					○		○			30.4	1.3	85	65	▼
9	(1)	○				○				○	○	76.3	3.8	75	55	◎
9	(2)	○					○		○			92.3	1.6	80	60	◎
10	(1)	○					○		○			82.4	1.8	80	60	◎
10	(2)	○					○			○		50.7	2.8	80	60	▼
11	(1)	○					○		○			70.4	3.7	85	65	
11	(2)	○					○		○			83.2	4.0	85	65	
12	(1)	○					○			○		72.0	5.6	85	65	
12	(2)	○					○		○			76.6	4.9	80	60	

[表2] 小学校5年生 理科 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,282	58.0	1.2	78.3	58.3	▼

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	物質・エネルギー	8	44.7	1.4	78.8	58.8	▼
	生命・地球	22	62.8	1.1	78.2	58.2	
評価の観点	①思考・表現	10	58.8	1.6	74.5	54.5	
	②技能	5	50.4	1.5	79.0	59.0	▼
	③知識・理解	15	60.0	0.8	80.7	60.7	▼
問題形式	選択式	18	61.8	0.4	79.7	59.7	
	短答式	7	63.3	2.2	78.6	58.6	
	記述式	5	36.9	2.7	73.0	53.0	▼
活用	「活用」に関する問題	5	47.9	2.5	72.0	52.0	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等		評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		物質・エネルギー	生命・地球	①思考・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				十分達成	おおむね達成	
1	(1) 水を温めると試験管の上部へ移動することを基に、水が一番上の部分が、温度が最も高くなることを理解している	○				○				21.7	0.1	85	65	▼
1	(2) 水が温まる様子を見るための実験方法を考えることができる	○				○				68.3	1.2	75	55	
1	(3) 空気の温まり方と色紙が回ることを関係付けて説明することができる	○				○		○		9.0	5.0	70	50	▼
2	(1) 水を冷やし続けたときの温度の下がり方のグラフと水の様子とを関係付けて考えることができる	○				○				76.7	0.2	80	60	
2	(2) 水が氷になると体積が増えることを理解している	○				○				58.6	2.5	80	60	▼
3	(1) 水を加熱し、沸騰させる実験を安全に行うことができる	○				○				38.2	2.4	80	60	▼
3	(2) 水の温度が100℃くらいになると沸騰し、沸騰している間は、熱し続けても温度が変わらないことを理解している	○				○				71.0	0.1	80	60	
3	(3) 湯気は液体であることを理解している	○				○				14.1	0.2	80	60	▼
4	(1) 動物の1年間の様子を季節と関係付けて考えることができる	○				○				52.4	0.1	80	60	▼
4	(2) 動物は、それぞれに適した姿で越冬することを理解している	○				○				29.4	0.2	85	65	▼
4	(3) 植物は、冬になると種子をつくって枯れたり、形態を変えて越冬したりすることを理解している	○				○				46.6	0.2	80	60	▼
5	水が水蒸気になることと洗濯物の重さが変わることを関係付けて説明することができる	○				○		○		62.7	2.0	70	50	
6	(1) インゲンマメの発芽に温度が必要かどうかを調べる実験を計画することができる	○				○				68.3	1.5	75	55	
6	(2) 発芽には、種子の中の養分が使われることを理解している	○				○				76.1	0.2	80	60	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		物質・エネルギー	生命・地球			①思考・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				記述式	十分達成	
6	(3)	○							○			52.8	3.3	80	60	▼
7	(1)	○							○			75.0	4.3	80	60	
7	(2)	○							○			8.3	0.3	80	60	▼
7	(3)	○							○			62.2	0.5	80	60	
7	(4)	○							○			82.6	0.4	75	55	◎
8	(1)	○							○			91.5	0.2	80	60	◎
8	(2)	○							○			70.1	0.2	80	60	
8	(3)	○							○			87.7	1.2	80	60	◎
9	(1)	○							○			81.3	0.4	80	60	◎
9	(2)	○							○			89.7	0.5	80	60	◎
9	(3)	○								○	○	59.2	1.9	75	55	
10	(1)	○							○			32.4	1.4	80	60	▼
10	(2)	○							○			54.8	1.0	80	60	▼
11		○								○	○	15.4	2.4	70	50	▼
12	(1)	○							○			90.6	1.2	75	55	◎
12	(2)	○							○		○	93.1	1.3	75	55	◎

[表3] 小学校6年生 理科 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,094	63.0	1.8	78.9	58.9	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	物質・エネルギー	14	63.7	1.5	78.6	58.6	
	生命・地球	17	62.3	2.1	79.1	59.1	
評価の観点	①思考・表現	12	63.2	1.6	73.3	53.3	
	②技能	8	71.3	0.3	82.5	62.5	
	③知識・理解	11	56.7	3.2	82.3	62.3	▼
問題形式	選択式	18	68.6	0.4	79.4	59.4	
	短答式	9	48.4	4.2	80.6	60.6	▼
	記述式	4	70.4	2.7	72.5	52.5	
活用	「活用」に関する問題	5	62.7	1.0	72.0	52.0	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等		評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		物質・エネルギー	生命・地球	①思考・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				記述式	十分達成	
1	(1) 周囲の空気が瓶の底から中に入ってくることを見るために、線香の煙の動きを使って実験をすることができる	○			○			○		84.0	0.5	80	60	◎
1	(2) 実験結果をまとめた表を基に、物が燃える前後の酸素と二酸化炭素の割合を比較して考えることができる	○			○			○		54.9	0.1	70	50	
1	(3) 酸素には物を燃やす働きがあり、窒素や二酸化炭素には物を燃やす働きがないことを理解している	○				○		○		79.4	0.1	85	65	
1	(4) 燃焼の仕組みを基に、物をどのように置くとよく燃やすことができるかを説明することができる	○			○			○	○	87.9	0.3	75	55	◎
2	(1) 薬品を扱う実験を安全に行うことができる	○			○			○		98.4	0.0	85	65	◎
2	(2) 物が水に溶ける量について調べる実験で、事象から制御すべき条件を判断することができる	○			○			○		56.8	2.7	80	60	▼
2	(3) 水の量と水に溶ける食塩、ホウ酸の量とを関係付けて考えることができる	○			○			○		88.8	0.1	80	60	◎
2	(4) ろ過を適切に行うことができる	○			○			○		71.0	0.3	80	60	
2	(5) 水溶液の温度によって、物が水に溶ける量の限度が変わるため、温度を下げると溶けきれなくなった物が出てくることを説明することができる	○			○			○		30.2	6.9	70	50	▼
3	(1) 振り子の長さの測り方を身に付けている	○			○			○		52.7	0.2	80	60	▼
3	(2) 振り子が1往復する時間は、振り子の長さによって変わること理解している	○			○			○		58.4	0.1	85	65	▼
4	(1) 電流の大きさと電磁石の強さとの関係を調べる実験を条件を制御して構想することができる	○			○			○	○	42.3	0.2	70	50	▼
4	(2) 電流の向きを知るための実験器具として、検流計(簡易検流計)を理解している	○			○			○		11.7	9.3	85	65	▼
4	(3) 電磁石を使ったふりこ時計の仕組みを電磁石の性質と関係付けて説明することができる	○			○			○	○	76.0	0.3	75	55	◎

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		物質・エネルギー	生命・地球			①思考・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				記述式	十分達成	
5	(1)	唾液によるでんぶんの消化を調べる実験を適切に行うことができる	○									74.6	0.3	80	60	
5	(2)①	食べ物が唾液の働きにより、体に吸収されやすい養分に変化することを消化ということを理解している	○							○		63.0	8.5	85	65	▼
5	(2)②	小腸の働きと位置を理解している	○							○		51.0	0.7	80	60	▼
6	(1)	植物の葉にでんぶんがあるかどうかを調べる実験を安全に行う方法を身に付けている	○									47.7	0.3	85	65	▼
6	(2)	日光と植物の葉のでんぶんのでき方との関係調べる実験を条件を制御して調べることができる	○									52.1	0.3	85	65	▼
6	(3)	実験結果から植物が自ら体内ででんぶんをつくり出していることを推論することができる	○							○		78.7	2.3	75	55	◎
7	(1)	生物の間には、「食べる・食べられる」という関係があり、もとをたどると植物に行き着くことを理解している	○							○		69.9	1.9	85	65	
7	(2)	海の中の生物においても、「食べる・食べられる」という関係があることを説明することができる	○								○	84.8	1.1	70	50	◎
8	(1)	太陽を安全に観察することができる	○									89.1	0.5	85	65	◎
8	(2)	月は太陽の光を反射して輝くことと、太陽と月の位置関係から月がどのように見えるかを理解している	○									74.8	0.5	75	55	
8	(3)	月の形の見え方は、太陽と月の位置関係によってどのように変わるのかを考えることができる	○									47.4	0.7	70	50	▼
8	(4)	太陽と月の特徴を理解している	○									89.1	1.6	85	65	◎
9	(1)	主に植物の葉から水が出ていることを調べる実験を計画することができる	○									87.7	0.7	75	55	◎
9	(2)	葉の表面にある、水蒸気が出ていく部分がどれかを理解している	○									50.1	1.0	80	60	▼
9	(3)	水が水蒸気となって植物から出ることを蒸散ということを理解している	○							○		56.5	5.9	80	60	▼
10	(1)	血液を循環させる心臓の動きを拍動ということを理解している	○									20.2	5.2	80	60	▼
10	(2)	運動によって呼吸をたくさんすること、運動によって呼吸をたくさんすること、肺の動きと血液の動きとを関係付けて説明することができる	○								○	22.6	3.2	70	50	▼

[表4] 中学校1年生 理科 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	6,972	55.0	3.3	70.2	50.2	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	生物的領域	15	52.5	2.1	70.3	50.3	
	化学的領域	16	57.3	4.5	70.0	50.0	
評価の観点	①思考・表現	11	39.8	3.1	64.5	44.5	▼
	②技能	8	63.6	1.9	73.1	53.1	
	③知識・理解	12	63.2	4.5	73.3	53.3	
問題形式	選択式	20	52.7	1.0	69.8	49.8	
	短答式	8	58.8	7.5	72.5	52.5	
	記述式	3	60.5	8.0	66.7	46.7	
活用	「活用」に関する問題	5	44.4	3.1	64.0	44.0	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等		評価の観点	問題形式	活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		生物的領域	化学的領域						十分達成	おおむね達成	
1	(1) プレパラートをつくらることができる	○		○		○	79.5	1.5	70	50	◎
1	(2) 顕微鏡を正しい手順で使うことができる	○		○			28.7	0.3	75	55	▼
1	(3) 水中の微生物の名称を理解している	○		○		○	67.1	2.5	75	55	
2	(1) スケッチを正しく行うことができる	○		○			91.9	0.2	75	55	◎
2	(2) 裸子植物の花の胚珠の役割を理解している	○		○			72.0	0.2	75	55	
3	(1) 光合成の実験を安全に行うことができる	○		○			63.7	0.2	75	55	
3	(2) 光合成の実験から、二酸化炭素の有無について推定することができる	○		○			41.6	0.3	65	45	▼
4	(1) 植物の呼吸の実験を適切な方法で行うことができる	○		○			40.4	0.3	70	50	▼
4	(2) 植物の呼吸についての実験結果から、実験で確かめられることを明確にして考えることができる	○		○			11.8	0.3	65	45	▼
5	植物の養分の移動についての知識を活用し、キウイフルーツの実が大きくなる理由を説明することができる	○		○		○	32.2	0.4	65	45	▼
6	蒸散の実験の方法を検討し、改善した理由を説明することができる	○		○		○	42.9	11.1	60	40	
7	(1) 合弁花類を理解している	○		○		○	65.9	4.1	75	55	
7	(2) 合弁花類と離弁花類の共通点について理解している	○		○		○	59.9	0.8	70	50	
8	(1) コケ植物の増え方を理解している	○		○		○	59.4	8.2	75	55	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		生物的領域	化学的領域			①思考・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				記述式	十分達成	
8	(2)		○						○		○	31.0	0.8	65	45	▼
9	(1)		○						○			60.7	0.6	75	55	
9	(2)		○					○				62.5	0.9	70	50	
10	(1)		○					○				61.0	13.9	75	55	
10	(2)		○					○				56.2	2.0	65	45	
10	(3)		○					○				67.0	1.0	75	55	
11	(1)		○					○		○		59.1	11.3	70	50	
11	(2)		○					○		○		83.4	4.6	70	50	◎
12			○					○		○		71.7	0.9	65	45	◎
13	(1)		○					○				84.9	0.8	75	55	◎
13	(2)		○					○				51.2	1.1	65	45	
13	(3)		○					○		○		75.0	7.1	75	55	◎
13	(4)		○					○				24.7	5.0	65	45	▼
14	(1)		○					○				56.4	1.6	75	55	
14	(2)		○					○		○		27.4	9.5	70	50	▼
14	(3)		○					○		○		29.4	9.9	65	45	▼
15			○					○		○		44.4	2.5	65	45	▼

[表5] 中学校2年生 理科 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,066	49.0	6.8	70.2	50.2	▼

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	物理的領域	5	45.0	5.5	68.0	48.0	▼
	地学的領域	5	46.3	5.0	73.0	53.0	▼
	化学的領域	10	48.3	8.2	69.0	49.0	▼
	生物的領域	9	53.4	7.1	71.1	51.1	
評価の観点	①思考・表現	11	37.8	7.2	63.6	43.6	▼
	②技能	7	57.6	3.4	72.9	52.9	
	③知識・理解	11	54.7	8.8	75.0	55.0	▼
問題形式	選択式	10	64.0	0.9	73.0	53.0	
	短答式	16	40.7	10.5	70.3	50.3	▼
	記述式	3	43.4	7.3	60.0	40.0	
活用	「活用」に関する問題	5	30.8	5.8	64.0	44.0	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		物理的領域	地学的領域	化学的領域	生物的領域	①思考・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				十分達成	おおむね達成	
1	(1) 物体に働く力を矢印を用いて表すことができる	○					○		○			67.6	0.6	75	55	
1	(2) 力の大きさとばねの伸びの関係をグラフに表すことができる	○					○		○			45.4	3.3	65	45	
2	圧力についての知識を活用して、ピアノの足の受皿が圧力を小さくしていることを説明することができる	○					○		○	○		33.5	2.8	60	40	▼
3	(1) 音源を理解している	○					○		○			67.9	11.3	75	55	
3	(2) 音の速さの知識を活用して、距離を考慮することができる	○					○		○	○		10.6	9.4	65	45	▼
4	(1) マグマの粘性による火山の形について理解している	○					○		○			63.7	0.5	75	55	
4	(2) 火山灰の観察を正しく行うことができる	○					○		○			61.2	0.5	75	55	
5	(1) 主要動を理解している	○					○		○			37.4	15.8	75	55	▼
5	(2) 地震についての知識を活用し、大きな揺れが始まるまでの時間を考えることができる	○					○		○	○		19.1	7.6	65	45	▼
5	(3) マグニチュードについて理解している	○					○		○			50.2	0.7	75	55	▼
6	(1) 水酸化ナトリウムを安全に取り扱うことができる		○				○		○			87.6	0.5	75	55	◎
6	(2) 水の電気分解の様子をモデルで表すことができる		○				○		○			43.2	9.5	65	45	▼
7	(1) マグネシウムを加熱する実験を安全に行うことができる		○				○		○			72.2	0.6	75	55	
7	(2) 実験結果を基に、マグネシウムと化合する酸素の質量を推定することができる		○				○		○			35.0	5.3	65	45	▼

設問別集計結果

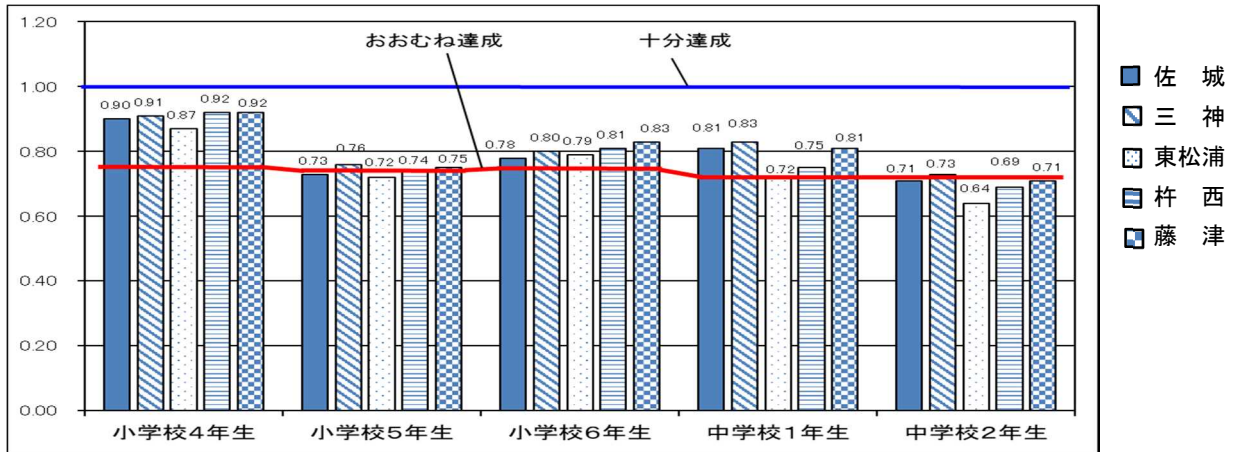
問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		物理的領域	地学的領域	化学的領域	生物的領域	①思考・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				記述式	十分達成	
7	(3) マグネシウムと酸素の化合を化学反応式で表すことができる			○				○			23.6	16.7	70	50	▼	
7	(4) 二酸化炭素中でマグネシウムの燃焼において、燃焼後の物質を推定することができる			○				○			22.7	13.8	65	45	▼	
8	(1) 化学変化の前後において、質量保存の法則が成り立つことを理解している			○				○			62.3	1.6	75	55		
8	(2) ふたをしたびんの中で気体が発生するとき、ふたを取ることで全体の質量が変化する理由を説明することができる			○					○		64.5	12.6	60	40	◎	
9	(1) 発熱反応を理解している			○				○			46.8	13.5	75	55	▼	
9	(2) 魚を焼く場面において、化学変化の知識を活用して、焼けた魚の表面の様子について説明することができる			○				○	○		25.6	8.3	65	45	▼	
10	(1) 組織を理解している			○				○			47.5	11.8	75	55	▼	
10	(2) 血液の流れを表した模式図において、酸素を最も多く含む血液が流れる血管を指摘し、その理由を説明することができる			○					○		32.2	6.5	60	40	▼	
10	(3) 腎臓を理解している			○				○			40.7	10.9	75	55	▼	
11	(1) だ液の働きを調べる実験を安全に行うことができる			○				○			45.9	1.4	75	55	▼	
11	(2) 消化酵素を理解している			○				○			45.8	15.0	75	55	▼	
11	(3) 実験結果を基に、だ液の働きを考察することができる			○				○			64.0	1.9	65	45		
12	生物の分類に関する知識を活用して、アルマジロが所属するグループを推定することができる			○				○	○		65.1	1.1	65	45	◎	
13	(1) 外とう膜を理解している			○				○			63.3	10.6	75	55		
13	(2) 節足動物を理解している			○				○			76.5	4.7	75	55	◎	

(4) 地域別の状況

- 県内5地域における学年別平均正答率の「十分達成」に対する状況は、小学校4年生と小学校6年生、中学校1学年で5地域とも「おおむね達成」の基準に達している。[グラフ11]
- 県内5地域における学年別平均正答率の対県比は[表6]のとおりで、中学校1年生で地域差が最も大きい。また、平成28年度12月調査と比べて中学校2年生で地域差が縮小し、他の学年は地域差が拡大している。

[グラフ11] 県内5地域における学年別平均正答率の「十分達成」に対する状況

※ 各学年における「十分達成」の到達基準を1.00として算出



[表6] 県内5地域における学年別平均正答率の対県比

学年・教科	実施年度	対県比(地域平均正答率/県平均正答率)					地域差	
		佐城	三神	東松浦	杵西	藤津		
小学校4年生	理科	H29[12月]	1.00	1.01	0.97	1.02	1.02	拡 0.05
		H28[12月]	1.00	1.01	0.97	1.01	1.00	0.04
小学校5年生	理科	H29[12月]	0.99	1.03	0.97	1.00	1.02	拡 0.06
		H28[12月]	0.99	1.03	0.98	1.01	1.00	0.05
小学校6年生	理科	H29[12月]	0.98	1.01	0.99	1.02	1.04	拡 0.06
		H28[12月]	1.01	0.99	0.99	1.00	1.01	0.02
中学校1年生	理科	H29[12月]	1.03	1.06	0.91	0.95	1.03	▲ 拡 0.15
		H28[12月]	1.02	1.01	0.95	0.99	1.05	▲ 0.10
中学校2年生	理科	H29[12月]	1.02	1.04	0.92	0.99	1.01	▲ 縮 0.12
		H28[12月]	1.01	1.04	0.94	0.96	1.08	▲ 0.14

※ 「対県比」は、県平均正答率を1.00として算出

※ 「地域差」は、対県比の最大値と最小値の差を表す

※ 「▲」は、地域差が0.10以上の教科を示す

※ 「縮」は、平成28年度[12月調査]より地域差が縮小した教科を、「拡」は拡大した教科を示す

※ 地域及び市町名

地域名	市町名
佐城	佐賀市、多久市、小城市
三神	鳥栖市、神埼市、吉野ヶ里町、基山町、みやき町、上峰町
東松浦	唐津市、玄海町
杵西	武雄市、伊万里市、白石町、大町町、江北町、有田町
藤津	鹿島市、嬉野市、太良町

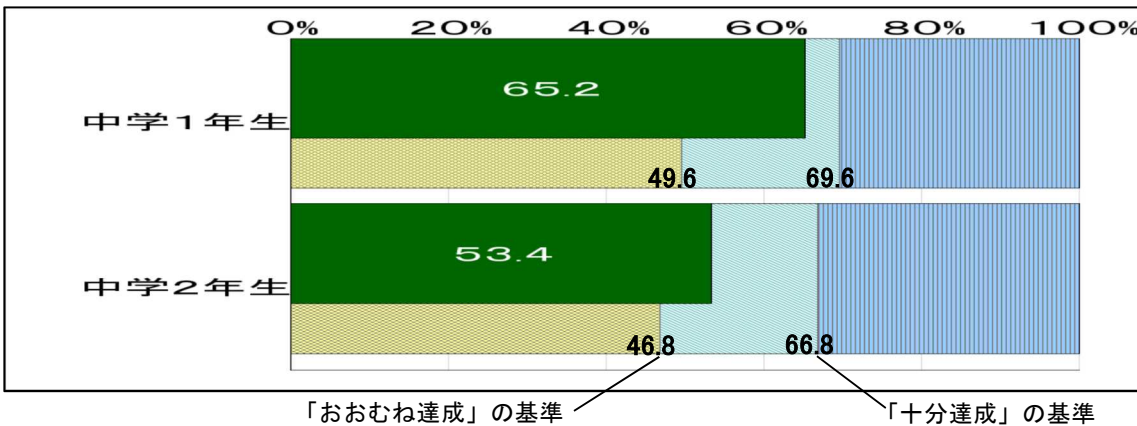
Ⅲ 教科ごとの調査結果とその分析

英 語

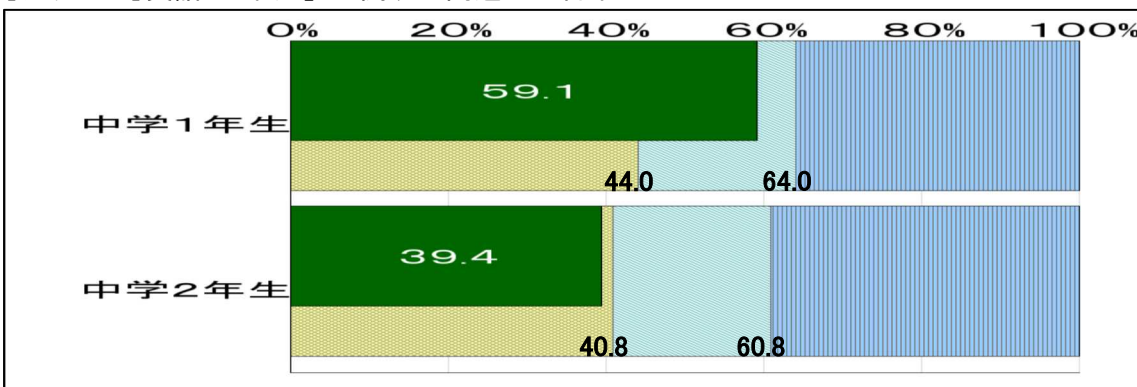
(1) 結果の概要

- 教科正答率は、全ての学年で「おおむね達成」を上回っている。[グラフ1]
- 「活用」に関する問題については、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ2]
- 観点別に見ると、「外国語表現の能力」については、中学1年生で「おおむね達成」の基準を上回っており、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。「外国語理解の能力」については、全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。「言語や文化についての知識・理解」については、中学1年生で「おおむね達成」の基準を上回っており、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ3～5]
- 内容・領域別に見ると、「聞くこと」については、全ての学年で「十分達成」の基準を上回っている。「読むこと」については、全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。「書くこと」については、中学1年生で「おおむね達成」の基準を上回っており、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ6、7]

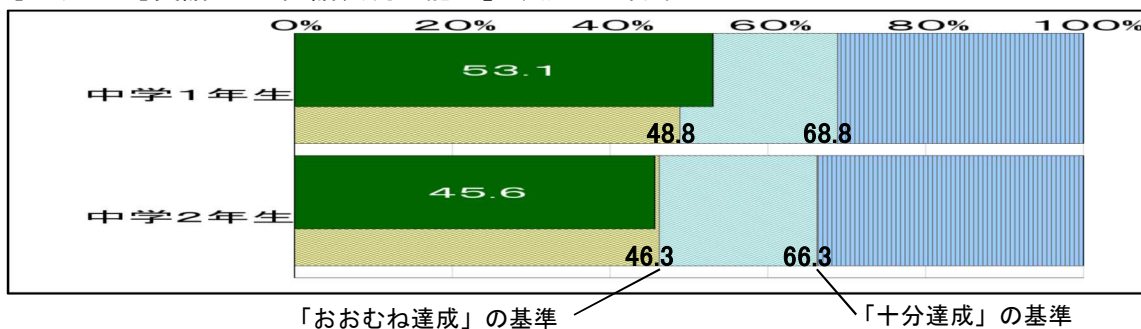
[グラフ1] 英語 教科正答率



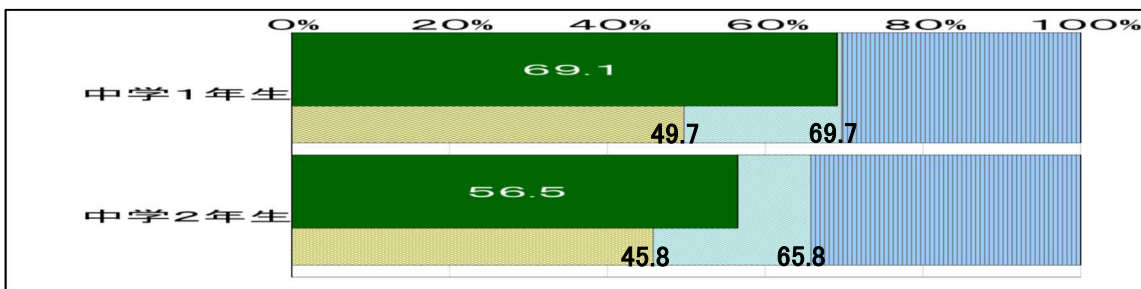
[グラフ2] 英語 「活用」に関する問題の正答率



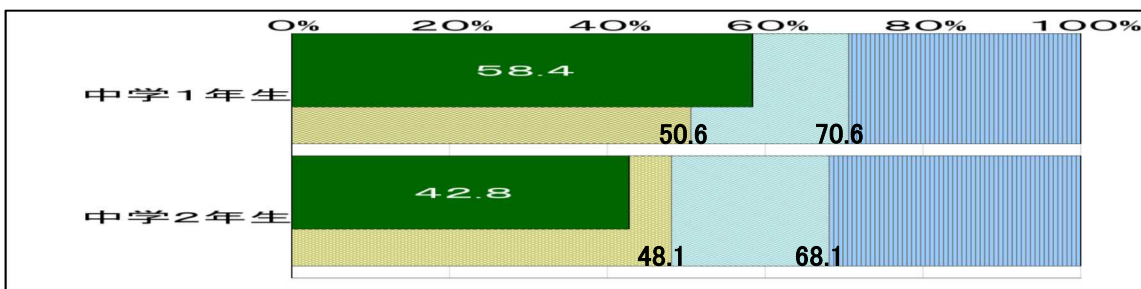
[グラフ3] 英語 「外国語表現の能力」 観点の正答率



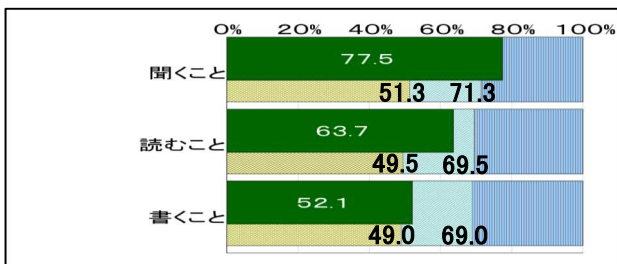
[グラフ4] 英語 「外国語理解の能力」 観点の正答率



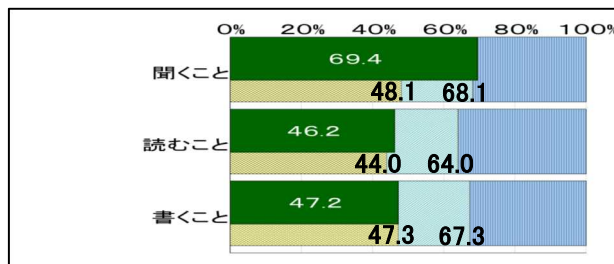
[グラフ5] 英語 「言語や文化についての知識・理解」 観点の正答率



[グラフ6] 中学1年生 内容・領域別正答率



[グラフ7] 中学2年生 内容・領域別正答率



(2) 成果と課題及び指導改善のポイント

中学校英語（中学1年生、中学2年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 対話を聞いて、適切に応じる力が、1年生で身に付いており、2年生では、同一学年の経年比較をすると、平成28年度[12月調査]から改善の傾向が見られる。
(「十分達成」の基準を1とした場合・・・H28:0.78→H29:1.05)※1 (中学1年生³、中学2年生²)
- ◇ 自然な口調で話される英語や対話を聞いて、概要や必要な情報を理解することができている。
(中学1年生²、中学2年生¹ ³(1))
- ◆1 対話文を読んで、話し手の意図や伝えようとしていることを正確に読み取ることに課題が見られる。
(中学1年生⁷(2)、中学2年生⁶(1)AB)
- ◆2 疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して、状況に合った文を正しく書くことに課題が見られる。
(中学1年生¹⁰(2)、中学2年生⁸)
- ◆3 読み取った対話の展開や発言の内容を根拠に、登場人物のこの後の言動を推測することに課題が見られる。
(中学2年生⁶(2))

※1 平成28年度佐賀県小・中学校学習状況調査[12月調査]Web報告書 参照

指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック☑してみましょう。）

- ◆1 対話文を読んで、話し手の意図や伝えようとしていることを正確に読み取ることができるようにするためには、本文を読解する学習において、次のような指導を行うことが大切です。
 - 書かれている情報を問う「事実発問」、書かれている情報を基に書かれていない状況を推測させる「推論発問」、書かれている内容に関して、生徒自身がどう考えるかを問う「評価発問」といった発問構成を意識して発問をしていますか。
 - 生徒が発問に対する答えを考えるときに、本文中に印を付けたり、メモを取ったりしながら分かるまで繰り返し読むように指導していますか。
 - 生徒が発問に対する答えを発表したり、書いたりするような活動を設定していますか。
 - 生徒が発問に対する答えの根拠を述べたり、書いたりするように指導していますか。
 - 本文に書かれている内容に関する自分の意見や感想を、ペアやグループで意見交換するような活動を設定していますか。
- ◆2 疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して、状況に合った文を正しく書くことができるようにするためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - Input（導入の場面）において、Teacher Talk を用いるなどして、生徒が表現の意味や使用場面について考えることができるようにしていますか。
 - 教科書の基本文や本文を扱うときに、状況を推測させるような発問をしていますか。
 - Intakeにおいて、実際のコミュニケーション場面を想定した言語活動を設定し、生徒が試行錯誤しながら、発話を考えることができるような機会を設けていますか。
 - Outputにおいて、「原稿を書いて、発表する」「友達の発話した内容について感想を言う」「英文を読んで、感想を述べ合う」など、複数の技能を統合した言語活動を設定していますか。
 - 生徒が記述した英文は、教師がチェックし、適時に Feedback していますか。
 - Outputにおける言語活動では、録画した生徒の発話の様子を視聴させたり、自分が発話した英文を記述させたものを教師がチェックして生徒に Feedback したりするなど、生徒自身が自分の発話した内容を振り返り、見直すことができるような工夫を行っていますか。
- ◆3 読み取った対話の展開や発言の内容を根拠に、登場人物のこの後の言動を推測できるようにするためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 教科書の本文や基本文に記されている場面や状況を基に、生徒が、登場人物のやりとりからイメージを膨らませて、発話を付加するような活動を設定していますか。
 - 発話を付加した英文を互いに発表し合い、Sharing する中で、友達の発表に対して、視点に基づく気づきや感想を述べたり書いたりするような活動を設定していますか。



ぜひ ご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターのプロジェクト研究では、学習状況調査から見える課題の解決に向けた授業づくりに取り組んでいます。読みのプロセスを踏まえた発問構成の工夫について提案しています。授業づくりに役立ててください。

(3) 各学年の設問ごとの正答率

[表1] 中学校1年生 英語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,003	65.2	4.8	69.6	49.6	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	聞くこと	8	77.5	0.3	71.3	51.3	◎
	読むこと	10	63.7	5.6	69.5	49.5	
	書くこと	10	52.1	8.5	69.0	49.0	
評価の観点	①表現	8	53.1	9.9	68.8	48.8	
	②理解	16	69.1	3.6	69.7	49.7	
	③言語・文化	9	58.4	7.0	70.6	50.6	
問題形式	選択式	12	77.0	0.6	70.0	50.0	◎
	短答式	6	55.7	8.5	70.8	50.8	
	記述式	8	54.6	8.4	68.1	48.1	
活用	「活用」に関する問題	5	59.1	5.8	64.0	44.0	

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等			評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		聞くこと	読むこと	書くこと	①表現	②理解	③言語・文化	選択式	短答式				十分達成	おおむね達成	
1	(1) 絵から読み取った情報と関連付けて、英語の質問に答える	○				○		○			81.3	0.1	75	55	◎
1	(2) 絵から読み取った情報と関連付けて、英語の質問に答える	○				○		○			70.7	0.2	75	55	
1	(3) 対話を聞いて、必要な情報を理解する	○				○		○			61.7	0.9	75	55	
2	(1) 対話を聞いて、概要を理解する	○				○		○			88.0	0.2	70	50	◎
2	(2) 対話を聞いて、概要を理解する	○				○		○			76.8	0.2	70	50	◎
3	(1) 対話を聞いて、適切に応じる	○				○		○			94.3	0.2	70	50	◎
3	(2) 対話を聞いて、適切に応じる	○				○		○			72.2	0.3	70	50	◎
4	聞いて得た複数の情報を関連付けながら理解する	○				○		○	○		75.0	0.3	65	45	◎
5	(1) 対話文を読んで、相手の応答を基に発言の内容を捉える	○				○		○			73.5	0.7	70	50	◎
5	(2) 対話文を読んで、相手の意向を理解し、適切に応じる	○				○		○			75.5	0.6	70	50	◎
6	説明文を読んで得た複数の情報とグラフから読み取った情報を関連付けながら理解する	○				○		○			70.3	0.9	70	50	◎
7	(1) 対話文を読んで、話の展開と人物の心情を関連付けて理解する	○				○		○			81.7	1.0	70	50	◎
7	(2) 対話文を読んで、人物の意図をつかむ	○				○		○	○		41.9	8.2	65	45	▼
8	(1)ア 対話文を読んで、大切な部分を理解する	○				○		○			74.1	14.3	70	50	◎

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		聞くこと	読むこと	書くこと		①表現	②理解	③言語・文化	選択式	短答式				十分達成	おおむね達成	
8	(1)イ	対話文を読んで、大切な部分を理解する	○						○			71.8	10.5	70	50	◎
8	(2)	対話文を読んで、その後の展開を捉える	○						○	○		64.3	2.5	65	45	
9	(1)	対話文を読んで内容を理解し、適切な語を書く	○	○					○			43.5	6.3	75	55	▼
9	(2)	対話文を読んで内容を理解し、適切な語を書く	○	○					○			40.9	10.9	70	50	▼
10	(1)	疑問文の構造を理解し、状況に合った文を正しく書く		○					○			45.2	12.1	65	45	
10	(2)	疑問文の構造を理解し、状況に合った文を正しく書く		○					○			38.5	17.1	65	45	▼
11	(1)	対話文を読んで、語と語のつながりに注意して正しい語順で書く		○					○			36.7	2.5	70	50	▼
11	(2)	対話文を読んで、語と語のつながりに注意して正しい語順で書く		○					○			59.7	3.2	70	50	
12	(1)	質問の答えを適切な表現を用いて書く		○					○			71.4	6.0	75	55	
12	(2)	質問の答えを適切な表現を用いて書く		○					○			70.7	8.8	75	55	
12	(3)	質問の答えを適切な表現を用いて書く		○					○	○		51.7	12.6	65	45	
13		自分の好きなこと（もの）を紹介する内容的にまとまりのある一貫した文章を書く	○						○	○		62.9	5.2	60	40	◎

[表2] 中学校2年生 英語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,063	53.4	8.8	66.8	46.8	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	聞くこと	8	69.4	1.1	68.1	48.1	◎
	読むこと	10	46.2	12.8	64.0	44.0	
	書くこと	11	47.2	12.3	67.3	47.3	▼
評価の観点	①表現	8	45.6	15.5	66.3	46.3	▼
	②理解	18	56.5	7.6	65.8	45.8	
	③言語・文化	8	42.8	13.5	68.1	48.1	▼
問題形式	選択式	13	67.3	1.2	67.7	47.7	
	短答式	5	42.3	12.4	66.0	46.0	▼
	記述式	10	41.0	17.0	66.0	46.0	▼
活用	「活用」に関する問題	6	39.4	16.6	60.8	40.8	▼

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等			評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		聞くこと	読むこと	書くこと	①表現	②理解	③言語・文化	選択式	短答式				十分達成	おおむね達成	
1	(1)① 自然な口調で話される英語を聞いて、必要な情報を理解する	○			○			○			76.0	0.4	75	55	◎
1	(1)② 自然な口調で話される英語を聞いて、必要な情報を理解する	○			○			○			91.5	0.3	75	55	◎
1	(2) 自然な口調で話される英語を聞いて、必要な情報を理解する	○			○			○			73.1	5.4	70	50	◎
2	(1) 対話の中の質問を聞いて、適切に応じる	○			○			○			69.5	0.5	70	50	
2	(2) 対話の中の質問を聞いて、適切に応じる	○			○			○			71.8	0.4	65	45	◎
3	(1) まとまりのある英語を聞いて、話し手が伝えたいことや聞き手として必要な情報を理解する	○			○			○			71.0	0.4	65	45	◎
3	(2) まとまりのある英語を聞いて、話し手が伝えたいことや聞き手として必要な情報を理解する	○			○			○			64.7	0.5	65	45	
4	まとまりのある英語を聞いて、話の概要を理解する	○			○			○	○		37.5	0.7	60	40	▼
5	(1) 対話の展開を読み取り、登場人物の心情が変化した理由となる相手の発言を捉える	○			○			○			66.3	8.8	65	45	◎
5	(2) 対話の展開を読み取り、絵から読み取った情報と関連付けて、その後の展開を考える	○			○			○			80.6	1.1	65	45	◎
6	(1)A 対話文を読んで、話し手の伝えようとしていることを正確に読み取る	○			○			○			39.8	13.1	65	45	▼
6	(1)B 対話文を読んで、話し手の伝えようとしていることを正確に読み取る	○			○			○			8.4	18.9	65	45	▼
6	(2) 読み取った対話の展開や発言の内容を根拠に、登場人物のこの後の言動を推測する	○			○			○	○		27.9	37.4	60	40	▼
7	(1) 説明文を読んで、話し手の伝えようとしていることを正確に読み取る	○			○			○			69.0	2.0	70	50	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		聞くこと	読むこと	書くこと		①表現	②理解	③言語・文化	選択式	短答式				十分達成	おおむね達成	
7	(2)	説明文を読んで、大切な部分を正確に理解する	○						○			24.0	15.5	65	45	▼
7	(3)	意見の内容を理解し、意見に対する賛否を、その理由から判断する	○						○		○	45.4	3.0	60	40	
8	(1)	疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して正しく書く	○					○			○	41.1	25.1	65	45	▼
8	(2)	疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して正しく書く	○					○			○	19.9	23.3	65	45	▼
9	(1)	対話文を読んで、語と語のつながりに注意して正しい語順で書く	○					○			○	57.6	2.8	70	50	
9	(2)	対話文を読んで、語と語のつながりに注意して正しい語順で書く	○					○			○	62.6	4.1	70	50	
9	(3)	対話文を読んで、語と語のつながりに注意して正しい語順で書く	○					○			○	34.3	4.3	70	50	▼
10	(1)	一文の前半の内容と後半の内容の関連に注意を払い、全体として一貫性のある文を作る	○					○				62.3	1.2	70	50	
10	(2)	一文の前半の内容と後半の内容の関連に注意を払い、全体として一貫性のある文を作る	○					○				75.1	1.2	70	50	◎
11	(1)	質問の答えを適切な表現を用いて書く	○					○			○	40.8	15.1	75	55	▼
11	(2)	質問の答えを適切な表現を用いて書く	○					○			○	32.6	18.0	65	45	▼
11	(3)	質問の答えを適切な表現を用いて書く	○					○			○	53.1	15.6	65	45	
12	(1)	A L T が書いたレポートの内容を正しく理解する	○					○				60.7	3.5	70	50	
12	(2)	書かれた内容を踏まえたコメントと質問を書く	○	○				○	○		○	39.8	24.7	55	35	

(4) 地域別の状況

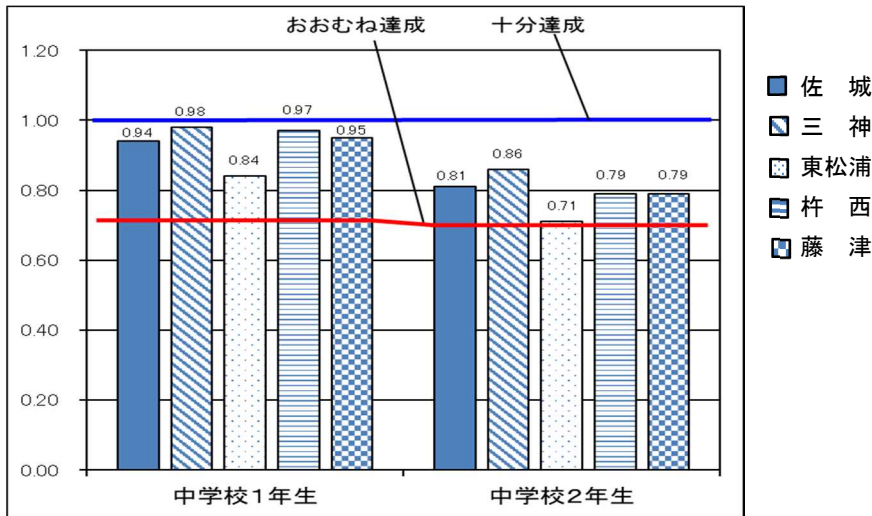
- 県内5地域における学年別平均正答率の「十分達成」に対する状況は、中学校1年生、中学校2年生ともに5地域とも「おおむね達成」の基準に達している。

[グラフ8]

- 県内5地域における学年別平均正答率の対県比は[表3]のとおりで、中学校1年生、中学校2年生ともに地域差が大きい。また、平成28年度12月調査と比べて中学校1年生、中学校2年生ともに地域差が拡大している。

[グラフ8] 県内5地域における学年別平均正答率の「十分達成」に対する状況

※ 各学年における「十分達成」の到達基準を1.00として算出



[表3] 県内5地域における学年別平均正答率の対県比

学年・教科	実施年度	対県比(地域平均正答率/県平均正答率)					地域差	
		佐城	三神	東松浦	杵西	藤津		
中学校1年生	英語	H29[12月]	1.00	1.05	0.90	1.03	1.01	▲ 拡 0.15
		H28[12月]	1.00	1.04	0.92	1.02	1.00	▲ 0.12
中学校2年生	英語	H29[12月]	1.02	1.08	0.89	0.99	0.98	▲ 拡 0.19
		H28[12月]	1.00	1.05	0.94	1.00	0.98	▲ 0.11

※ 「対県比」は、県平均正答率を1.00として算出

※ 「地域差」は、対県比の最大値と最小値の差を表す

※ 「▲」は、地域差が0.10以上の教科を示す

※ 「縮」は、平成28年度[12月調査]より地域差が縮小した教科を、「拡」は拡大した教科を示す

※ 地域及び市町名

地域名	市町名
佐城	佐賀市、多久市、小城市
三神	鳥栖市、神崎市、吉野ヶ里町、基山町、みやき町、上峰町
東松浦	唐津市、玄海町
杵西	武雄市、伊万里市、白石町、大町町、江北町、有田町
藤津	鹿島市、嬉野市、太良町